

— 目指せ 自治会活性化 —

25
年度

地域づくり 担い手育成講座

ダイジェスト



長崎市 自治振興課

25年度 地域づくり 担い手育成講座 **ダイジェスト**

長崎市では、地域の若い世代の方に、自治会活動への知識を深め、自治会を牽引する力を身に付けていただくため、平成20年度から「地域づくり担い手育成講座」を実施しております。

今年度は毎回、テーマごとにグループ討議を行い、実際の活動時に感じる悩みや課題を出し合い、具体的な解決手法を探りました。

— 目次 —

第1回	オリエンテーション	2
第2回	自治会って、なんだ？	22
第3回	自治会活動現地研修	32
第4回	加入促進・活性化	44
第5回	次世代育成・役員の話	56
第6回	公開講座・閉講式	66

第1回 オリエンテーション

1. 講師・サポーターの紹介
2. 対談「自治会とつくる住みよいまち」
3. 鶴の尾町活動紹介(緊急入院セット)



講師・サポーターの紹介

さとう よしのぶ
講師：佐藤 快信 先生

(長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部長)

長崎県や諫早市、小値賀町など多数の自治体を支援し、市民参加のまちづくりを実践する地域づくりの専門家。

国や地方公共団体の審議会等の委員も数多く務めておられます。

平成24年度に引き続いて本講座のコーディネーターを引き受けていただきました。昨年度の講座では、親しみやすい語り口と経験に裏打ちされた的確な助言で、受講生の本音を引き出しました。



サポーター

前年度の講座修了生であり、長崎市の「いきいき地域サポーター制度」に、自治会運営サポーターとしてご登録いただいた5名の方々。

本講座においては、自治会での経験を生かし、議論をより深めるサポートをしていただきました。

やまぐち あきら
山口 明 さん(鶴の尾町自治会)

山口です。早速ですが、(受講生の自己紹介で)高齢化率の話がありました。うち(鶴の尾)は、65歳以上が15~16%くらいいるんですけども、私の体感では、もう25%はいるんじゃないかといった印象です。高齢化の実感としてはそんな感じですよ。

皆さんも、結構高齢化が気になっているところがあるようですよけれども……いろんな、そういった問題を抱えながらも地域は動いていかなければならない、というようなことでありまして、皆さんと一緒に勉強させて頂きたいと思います。



第1回 オリエンテーション

やました まさひろ

山下 雅弘 さん(ダイヤモンド第3自治会)

受講生の自己紹介で、去年2月の講座(平成24年度担い手講座最終回)で取り上げたうちの自治会の『ごみさるく』に興味を持ってくださった方がいらっしゃいました。

じつは2月の講座でそれを話したのは私です。うちの自治会では『公園さるく』と呼んでおりまして、内容としては、団地の中の公園をひとつひとつ回ってみよう、というものです。

各公園では、チェックポイントとして、ごみの分別クイズをやります。そのごみの分別クイズに関して、いろいろしゃべりましたので、多分頭の中に残っていたのだらうと思います。そのときは出席された田上市長も大爆笑でした。こんなふうに、いろいろ面白いことを考えようとしている自治会です。



市長の話をしてしまったけれども、以前市長と話したときに、地域活動には「グッズ」が要るんですよね、と言われました。つまり小道具です。何かしようというときに、そういった小道具をポツと作って活用できるようなところでは、上手いくんです、という話でした。

私もちょっとダイヤモンド3丁目を見たときに、「グッズ」って何かなと思ったら、たとえばトイレを和式から洋式に変えたり、60型の大型テレビを買ったり、冷蔵庫を替えたり、コンロを替えたりといろいろしてきたんですけれども、なるほど、これなんだなと……

最近では、会長の松島さんと相談して、集会所をちょっと変えました。今までは会議なんかでも、低い机で、床に座布団を敷いて話していました。配置も、学校みたいにみんな同じ向きに並んでいて、後ろの人が発言しても見えないような状態でした。でもこれじゃあ話し合いの場としていまいちですし、高齢の人も多いから膝が痛くなる。そこで椅子を買おうという話になりました。

しかしお金がない。ということでうちは以前から、集会所で高齢者すこやか支援課の高齢者サロンとこのをやっているんですけれども、そこでもやはり同じ問題が出ていたので、そのサロンの費用で、椅子を買いました。

今度は机をどうしようかという話になって、松島会長に相談すると、「あ、自分がつくるから」ということで、丸いテーブルをつくりました。木製の丸いテーブルです。それにシートを被せて使います。それに加えて、私からの提案で、ターンテーブルを作ってくれませんか、と頼みまして……いつでも宴会ができるようにですね。

(佐藤先生:あの、そろそろこのへんで……)(会場笑)

あつ、すみませんね。で、つい先日も、ダイヤモンド全体の自治会長さんに集まってもらって40人規模の懇親会を開きました。

こういうふうに、とにかく楽しい自治会にしようということで話し合っております。そういう話を講座の中でもしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

まつしま こうぞう
松島 孝造 さん(ダイヤランド第3自治会)



松島です。自治会長4年目です。副会長を9年。その前に幼稚園から小・中・高校とPTA会長をして、隣の机に座っておられる梶さん(受講生)ともずっと顔なじみでした。

そして消防団……先ほども防災という話がありましたが、私は今、分団長もしています。当然防災リーダーの資格も持っています。防災という面、自治会としてもしっかりと考えていかないといけないものです。

現在はやはり高齢化社会ですから、高齢者サロンのように、高齢者が元気になる活動を重点的にやっております。みなさんの力に少しでもなればと思います。よろしくお願いします。

とみます きよし
富増 清志 さん(光風台第2自治会)

富増と申します。今日は、先生との対談という大役を仰せつかりました。なんで、私がこの対談に出るんだろうか？ というと、じつは、前年度終わってから、反省会、いわゆる打ち上げがあったんです。その時に先生が「この講座で、発言し足りなかった人いますか？」と仰ったときに、私がパッと手を挙げたんですよ。

そしたら、「来年もおいで、25年度のときに十分話をさせてあげるから」と言われてしまい……いやあ……非常に、口は災いの元というかね……軽率な行動をとったなあ、と思って……反省しております。そういうことで私は、決して優等生だから出ているというわけではなくて、どちらかと言えば劣等生で。優等生はこちらのお二人、そしてこちらのお二人です(他のサポーターを示しながら)。もう私、それで今日はドキドキしてはいますね、お水を用意してもらっているんですけど、もうおかわりが欲しいくらいになっています。どうかお手柔らかにお願いいたします。



おだ たかし
小田 喬 さん(女の都西部自治会)



この育成講座には、これまで20年度と、23・24年度の3回参加しております。今回も「自治会ってなんだ」「加入促進」とか、「次世代の育成」とか、自治会の原点みたいなテーマが取り上げられていますので、皆さんと一緒に勉強したいなと思っています。

今、一番考えていることですが、最近「役員のなり手がいないから、もう解散だ」というような自治会の話結構聞いていますので、本当に「自治会って、何なんだろうか？」ということ、皆さんと一緒に勉強できたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

対談「自治会とつくる住みよいまち」

(佐藤先生)

皆さん改めまして……もうそろそろ「こんにちは」かな？
時間的には……それとも、まだ「おはようございます」、ですかね？ ……おはようございます！

(受講生) 「おはようございます」

(佐藤先生) こんにちは！

(受講生) 「……」

(佐藤先生) まだ「おはようございます」みたいですね。
あの一、やっと、私の出番が回ってまいりました。(会場笑)
……今年度も引き続きこの講座、ということでして、今日、
ここに集まっているサポーターの方々というのは、富増さん



佐藤 快信 先生

が先ほど言われたように、私のファンじゃなくて、私がファン
になっている方々です。そういう意味では、なんか無理
を言って、やってくれるという方々でありまして、ごめんねごめんねと言えば済むという……

あの……、皆さん方の自治会のお話を聞いていると、後
継者不足など、なかなか大変だということなのですが、一方
で、私は恵まれているのかな、ということを感じております。

今回、受講生の方でも、何人かの方は前年度も受けてい
ただいています。本当は、そちら(受講生)から、こちら(サポ
ーター)の方に移っていただくのが一番いいんでしょうけれど
も、まだまだ参加する側でいたいということではいらっしゃるよう
です。……どうかよろしくお願いします。



富増 清志 さん

■一年間の流れについて

(佐藤先生)

今日から6回のシリーズでスタートして参ります。

第1回は、皆さんの顔合わせというかたちで、お話しいただいております。

そして、第2回では、だんだん中身に入っていこうと思います。『自治会ってなんだ？』というなかで
……たとえば市民活動とかボランティア団体って、最近たくさんありますよね。そういったものと自治会

第1回 オリエンテーション

ってというのは、どこが違ってくるんだろうか、または同じなんだろうかというところから、改めて自治会の役割というのを考えていこうかね、ということです。

それから、第3回目。どうしてさっき(山下さんの自己紹介で)泣きを入れたかという、第3回はそこ(ダイヤモンド3丁目)に行くんですよ。

いまからネタをどんどん出しちゃったら、みんなで行っても「ふうん」で終わってしまいますので。そのときに熱く語ってもらおうということで……ちょっと泣きを入れました。というくらい、実際に、本当にいろんなことをやられています。

ただ、前もって言うておくと、ここがお手本というわけじゃないんですよ。つまり「みなさん方がすべて、この自治会のようなものを目指すべきということではない」ということです。まあ、そのあたりのことはまた、二人の対談の中で出てくればなあと思っています。

それから第4回のところでは、加入促進とか高齢化の問題、若い人たちの参加がなかなかない、というような話をテーマにします。

第5回では次世代の役割というような流れで進めていきます。

(佐藤先生)

今のところ、どういう形で行くかというのは決めているんですけど、とりあえずグループ討議を中心としながら、だいたい6人で一つくらいのグループを作っていて、お話しただこうと思っています。

じつは去年は、私が前半ほとんどしゃべって、後半グループ討議という計画だったんですけども、雰囲気はぜんぜん違いましたので、みなさん方でどんどんお話しいただく場を作りました。ですから、グループでやりますよということも言っているけど、どんどん変えていくということもあるかもしれません。

■講座での出会いを大切に……

(佐藤先生)

少なくとも私は、こういうようなシリーズをやっていく中で、大事だと思っているのは、講座が終わったら……一期一会じゃないですけど、集まって……皆さん方が、講座が終わったからといってバツと散ってしまうじゃなくて、また「同窓会」をやってくださいということです。

去年も一応同窓会をやりました。私も参加してきましたが、今度も第3回くらいにあわせてちょっと同窓会をやりようと思っています。

……という具合に、今座っている席のお隣のかた、まあ、一緒の自治会だということもありましょうけれども、必ずお隣のかたのお名前は、覚えてからお帰りください。

グループ討議になると、今度はグループのかたの名前と顔を覚えてからお帰りくださいということになります。よろしく。

第1回 オリエンテーション

■この講座で思いを吐き出して、ぶつけ合ってほしい

(佐藤先生)

さあ、こんなことやっていると、やっぱり予定していた30分は無くなってきたね。さあ、二人で始めましょうよ。今日二人で話そうっていうテーマとしては、「自治会とつくる住みよいまち」ということになっているんですが、とりあえず自治会の役割とか、そのあたりをテーマに進めていこうと思っています。

まず、やっぱり……今年は雰囲気の違いでしたね。

(富増さん)

すごく濃い自己紹介でしたね。なんだか「わが自治会のプレゼンテーション」を聴いているようでした。みなさんそれだけ力が入っているんだと、本当に感動しまして……自己紹介というよりはもう全体討論というような感じで、自治会の役割だとか、「こんなところに燃えているんだ」とか、事例報告みたいなものまでありまして、もう驚きました。

……私は、去年のことしかわからないですけども、非常に去年の人はおとなしかったんですよね。それで、グループ討議なんかして、ちゃんと発言はあるのかなと心配したんです。

今年もそんなとくのために、呼び水をするサポーターをお願いしたりしたんですけども、もしかしたらその必要もないのかもしれない。むしろサポーターがブレーキ役になるんじゃないかというくらい。

受講生の方からは「初めてだから、基本的な自治会のノウハウを勉強したい」という方もいらっしゃいましたし、「自分の自治会にはこんな悩みがある、他の自治会はどんなふうになっているのか聞きたい」というようなご意見もありました。

ここで、この講座について勘違いしていただきたくないのは、自治会のノウハウとか、自治会はどういったものだ、というのを先生が説明してくれるというものではないということです。

学校の授業みたいに、私たちは生徒で、じつと先生の話聴いておけばいいということではなくて……ほとんどこの人……失礼、「この人」じゃない(笑)、この先生は、あまりしゃべらないんですよね。ただ、こういう切り口で話してごらんとおっしゃる程度なんですよ。

つまり、自分たちのグループ討議のなかで、活発な意見を出さないといけないということです。去年は、こんな方がいました……

いわく「会長から『あんた担い手講座に行きなさい』と言われたから来ました。『なんも発言せんでよかよ、話だけ、うんうんと聞いとけばよかけん』と会長が言ったんですよ」

と……そしたらなんか違ったということで、「なんか発言せにやいけん、私はそれなら嫌だよ、次から来ん」とまでおっしゃっていました。

でも、なんとその方は最後までいてくれまして、市長から修了証を受け取って帰られました。



▲昨年度のグループ討議

第1回 オリエンテーション

そういう講義の進め方ですから、恥ずかしがらずに、ちょっと積極的に参加したらいいんじゃないかというのが、去年の感想でございます。

(佐藤先生)

非常に、積極性というか、そういう意味では、皆さん方の自己紹介を聞いておりますと……自己紹介というのは本来は、**自分のことを紹介**するのが自己紹介なんです、多くの方が、自分ではなくて、**自分の自治会**のことを語っておられました。自治会というものを真剣に背負われて活動されているんだということがすごく伝わってきました。

そういう真剣さでもって、グループ討議というところで、今後、どんどん自分たちの思いをぶつけあっていただきたいと思います。

(佐藤先生)

さっきも言ったように、昨年度の講座では、当初は、半分は私が講義みたいなことをやって、後半でグループ討議をやるかと思っていたんですが、結局はどんどん討論をしてもらうようにしました。

皆さんの様子では、今年も多分、皆さん方にいきなり「こういうテーマで話し合っ」ということで進めた方がいいと思う。そうした方が、皆さん方のいろんな思いというものを、とにかく、こう、吐き出しちゃうというか……そういうことによって、情報を交換できるというのが、すごく大事だと思います。

(佐藤先生)

自治会の差というのは大きいです。規模で言えば、何百世帯という大きなところがあり、十何世帯近くの小さなところもあり様々ですよ。で、大きいところと小さいところが同じことをやってもどちらも上手くいくかといえば、それは違いますよね。

日本全体の感覚でもそうでしょう。東京でやっているようなことを地方が、長崎がやろうとしても、上手くいくわけがない。**それぞれの地域にあったものを、自分たちで選択する**。そういうことをして、これは使えるなと思ったら、そのときは……？

さっき隣の名前を覚えて、と言いましたが……「さっきの話は面白かったばい、ちょっと今度活動を見に行くから、教えてね」とか……そういう**関係性を**をどんどんつくっていってもらうのが、じつは、この講座の本当の大きな目的だろうと思っています。

■いろいろなタイプの自治会

(佐藤先生)

えーと、それから、ちょっと話をまた進めましょうか。富増さん自身が、自治会役員としていろいろやっていくなかで、何か感じたことというのはありますか。

たとえば、自治会にも、いろんな自治会……いろいろなタイプの自治会があるじゃないですか。

第1回 オリエンテーション

(富増さん)

ああ、今先生がおっしゃったような、自治会のタイプですか。

たとえば私の自治会は、光風台第2自治会といって、長崎市の北西部、三重新漁港がある、三重地区の新興団地の自治会です。会員は六百数十世帯といったところで、組織率は85%くらいです。

しかし結成されてもう26年になるんですよ。だいたい、こういう団地ができるときって、30代から40代前半の人たちが、一斉に家を建てて住むじゃないですか。それから26年たったから、子どもはみんな巣立ってしまって、町はじいちゃん、ばあちゃんばかりに。

自己紹介でも皆さんおっしゃっていましたが、高齢化の町になったということで、いろんな悩みごとがたくさんある、問題の多い自治会でございます。

(佐藤先生)

富増さんも、去年いたグループの中で、他の受講生にも「おたくは、どんなタイプの自治会なの」と聞いていましたね。

(富増さん)

それです、今日もいろんなタイプの自治会の紹介がありましたね。

ここでちょっと整理してみるとね、まずは私たちみたいな新興団地の中の自治会。これはもう、寄せ集めの集団ですよ。こういう自治会がある。

それから、昔からの地縁の組織、地縁の関係が非常に深いという、伝統的な集落。その集落の中では、互いに知らない人はいないよ、みんな顔見知りだよ、というような自治会もある。

商業地域、商店街とのかかわりが強いような自治会もあるみたいですよ。

それから…マンション・アパートですね。マンションの管理組合を兼ねたような自治会というのを去年は聞きました。

それから別の切り口では……今日もありましたね、災害リスクが大きい自治会。傾斜地なんかが含まれます。そういうところでは、防災をなんとかせにやいかん、ということで頑張っているところがたくさんあります。

あとは、伝統行事。たとえばお諏訪さんの踊り町になってるとか、地元の神社の祭りを絶対に支えないといけないんだとか。そういう自治会も、去年はありました。

また分類の仕方を変えれば、長崎には……約 1000 近くの自治会があるそうですね。そして、会員数がすごく多い、800とか600とかのマンモス自治会もあれば、少ない所、一番少ないところはですね、ちょっと自治振興課のホームページ見てみたら、4世帯の自治会もあるんだそうで。

こんなふうに、様々な自治会がありますので、先生もさっきおっしゃったように、同じ「自治会」だからと言って共通しているところばかりではない。自治会をひとくりにしてはいけないということでしょうね。それぞれの自治会のあり方というのを、やはり尊重してあげないといけない。まあ、このような感じをもちました。

(佐藤先生)

ええ、なかなかそうですよ。4世帯というのはびっくりするね。本当なんですか？

(富増さん)

間違ってたら言ってね。

(事務局)

おっしゃるとおりです。

自治会のタイプ

- ◎昔からの集落の自治会
- ◎新興団地の自治会
- ◎商業地域・商店街のある自治会
- ◎マンション・アパートの自治会
- ◎災害リスクが大きい自治会
- ◎伝統行事を守り伝える自治会

➡ 「それぞれの自治会のあり方」

長崎市の自治会

- | | | | |
|---------|-------|----------------|------|
| ◎単位自治会 | 990組織 | ◎連合自治会 | 85組織 |
| ◎最大の自治会 | 890世帯 | ◎最小の自治会 | 4世帯 |
| ◎平均世帯数 | 137世帯 | (平成25年6月27日現在) | |

■自治会って、不思議だ

(佐藤先生)

さっき、自己紹介シートとか、いろいろお話を聞いているとね、自治会やっているとか、「いろいろな周りの人に、『好きだからやってるんでしょ』なんて言われちゃう」と書いてありました。富増さん笑っていますけど、結構リアリティありますよねこの話って。富増さんは実際に自治会に関わっていますし。

自治会っていうのはやっぱり特殊ですよ、そういう意味では、『好きだからやってるんでしょ』というのはちょっと……

じゃあ、さっき言った、いわゆるボランティア団体とかとの違いというか、自治会やって不思議だなとか思ったこと、そのへんの話はありませんか。

(富増さん)

きょうの自己紹介の中でも、それに近い話があったと思うんですけど、結局は役員が動いても、住民の皆さんは……「笛を吹けども踊らない」というようなジレンマがあるんだ、という話がありました。

それで、そもそも自治会というのはどういう組織なのかな？ ということを考えてみると、……市民団体との連携とか、市民活動というようなキーワードが先ほどちょっと出ましたけど、市民活動というのは、特定のことをやりたい人が、ワッと集まって活動しようというものですから、指向するところはみな同じ、いわゆるベクトルがみんな同じなんです。

第1回 オリエンテーション

いっぽう自治会というのは、ベクトルが定まらないというのかな。「その地域にすむようになったら、当然、自治会に入る。入るのが当たり前」というような習慣によって支えられてきました。……ということで、自治会というのはなんだろう、というのは、はなはだわかりにくい。

そういう集団が自治会だと思っんですよね。でもだいたい、今の我々は団塊の世代ですけれども、きょうお集まりの皆さんと一緒に、「その地域に住めば、その自治会に入って当たり前」というような感じで、もう、特に考えることなく、ダダっと会員になってるんじゃないかと思っんですよ。

でもこれ、あくまでも任意の団体ですよ。今は、どこでも自治会というのは任意の団体なんだけれども、それでも会費まで払っってね、自治会を支えようとする。

それは一つは、「自治会に入るのが当たり前」という人がたくさんいてくれるからというのがあります。

そしてもう一つには、会費……本当は払いたくないんだけど、たかだかひと月に数百円で大した額じゃないし、「俺は払わんぞ！」とあえて言い張っって、物議をかもしすよりも、まあ、払っって丸く収めるというか、長いものには巻かれるというような、こういうぼやっとした考え方があるからというのも実際にはあると思っます。そんなところも、自治会じゃないかなあと思っます。

ぼやっとした考え方ということで付け加えますと……

ちょっと語弊があるから、今から言うことは、あくまでも私の町の自治会の様子ですよ。すなわち、

「自治会の意義はわかるけれども、自分が役員になるとかは絶対に御免ですよ」と。

「役員なんてのは好きな人がやっってください。そして好きにやっってください、文句は言わないから」と。

「どうせ安い会費だから、メリットとか利益とかそんなものは特に求めないので、とにかく役員さんたち頑張っってください！」

というのがうちの自治会の様子です。こういうふう非常にぼやっとしている。

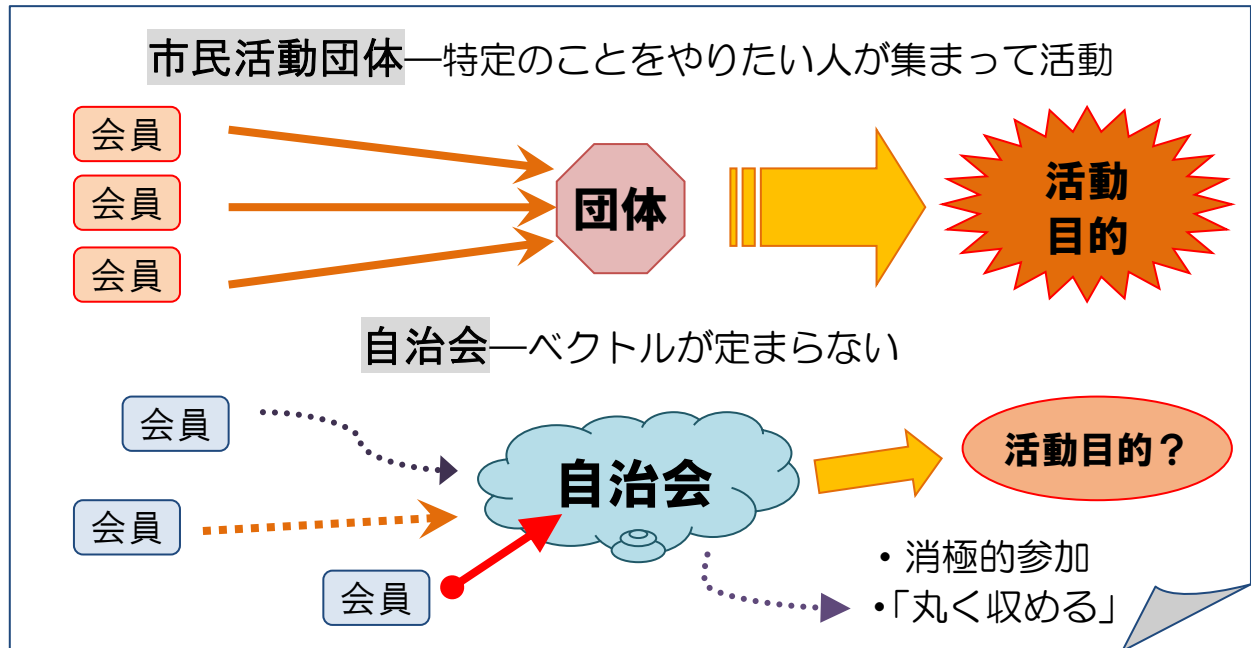
(佐藤先生)

そうですね。もちろん自治会というのは任意の団体なんだけれど、やはり全員加入が原則だし、活動も、全員加入であることを前提にしている、みたいなこともある。

他にも、たとえば未加入の独居老人が亡くなっったりすると、「なんで自治会が何もしなかつたんだ」と責められるとか、そういう不思議なところがあるのが自治会なんだろうと思っます。

変な話ですけれども、周りの人と摩擦を起こしたくないし、とりあえず会費だけは払っっておこうかな、というような消極的参加の話もそうです。ひょっとすると、自治会にはほとんど積極的参加というのはないのが実情かもしれませぬ。

ということで、自治会というもののとらえ方というのは、他の集団を考えるととはちょっと違う視点でとらえないと、本質がわからなくなるというか、見えてこないという側面があるのかもしれない。



■自治会の役割とは？

(佐藤先生)

「自治会の役割」みたいな話もいくつか出てきましたよね。
そうしたところで、なにか感想はありますか。

(富増さん)

自治会の役割ですね。自治会の役割というね、先ほど、課長さん……自治振興課長さんが、冒頭のご挨拶の中で、自治会の役割を全部おっしゃったんです。皆さん、記憶にありますか？

いかにも、お堅い……お役所の言葉というような感じで、地域福祉の向上とか、行政との協働とか……自治会はこういう、こういう、こういうものですよ、と全部おっしゃいました。……ま、ちょっと悪いけど、心には響かなかっただけ……堅くて難しかったもんだからね……ごめんなさいね。

でも、わかりやすく言うと、自治会の役割には、3つあるというふうに思うんです。これは先生が唯一教えてくれたことなんですけれど(苦笑)、3つです。

1つ目は**地域のコミュニケーションを形成すること**。隣近所の付き合いから始まり、自治会全員が顔見知りになって仲良くコミュニケーションを図ろう、というのが一つありますね。

それから2つ目、これには大きな意義を感じている方もいらっしゃると思うんですけれども、いわゆる**住みよいまちづくり**。

今はやっている言葉だと、**安全・安心**と言われますけれども、いわゆる住みやすいまちを作ろう、というのが2つ目ですね。

これはごみの問題だとか、交通安全、防災、防火、防犯……それからその他の環境美化ですか。

第1回 オリエンテーション

このようなものを、計画を立てて、住民の皆さんにも作業に出てもらって、あるいは共同体を作って、わがまちを守ろう、安全なまちを守ろうというのが二つ目、でしたよね先生。

(佐藤先生)

うん。そうですね。自主防災組織なんかもそうですね。

(富増さん)

それから3つ目が面白かったのは……先生が作ってくれた資料では、3つ目がわざと空白にされていたんですね。3つ目はなんだろう？ ということで、じつは3つ目は、**心豊かな人間性、助け合いの精神を醸成する**というものでした。

地域の中には、独居老人だとか、体の不自由な人もいます。他には独居じゃなくても、老人に限らなくても、話し相手もおらず、寂しい思いをしている人もいるかもしれない。そういう人に声をかけたら、いくぶんか、心が安らぐわけです。それから、ヘルプ……手助けの必要な人がいても、うまく地域で助けていく精神を作っていこうというものです。

この3つは、先生から習ったことですが、上手く復習できましたでしょうか？ 合格でしょうか？

(佐藤先生)

いやいや、よろしゅうございますよ(笑)。

(佐藤先生)

えーと、3つの役割なんですけど、私が言ったことというよりは、まあ、一般的によく言われている話ですよ。

ただ、やっぱり最近の長崎でも防災とか、いわゆる安心・安全なまち、というものが非常に大事な話題になっています。ここでそれについて、自治会で話し合いをすると、おそらく、みんな「そうだよそうだよね、安心・安全なまちをつくることは、とても大事だよ」という展開になると思います。しかしその後は……「で、誰がやるの？」と(笑)。そういう話になるんです。

そうしたときに、それこそ「自分達でやるしかない！」と、ある意味では開き直るようなことで進めているところもあるだろうし、それだけじゃなくて、そういう情報を発信することによって、若い人たちを巻き込んでやっていく、ということなんかも考えられる。場合によっては、去年の話ですが、一つの自治会だけでやっていくんじゃなくて、**連合体みたいな感じで周りと連携しながらそういう活動をやっていく**という話も出ていました。その辺りのところに関するヒントみたいなものも、今後の講座で生まれていくかもしれません。

もうひとつ、こういう助け合いとか安全というのは、割と昔……と、いってもそれほど昔でもないんだけど、少なくとも昭和の時代までは残ってた気がするんですよね。平成になってからは、わりとそのあたりが……生活がどんどん便利になっていく半面、人と人とのつながりというのが分断されていくという現実があって、なんだかそのあたりの感覚というのがちょっと薄れて来ているかな、という感じがしています。

自治会の役割（佐藤先生による）

- ①地域のコミュニケーションを形成する
- ②安全・安心で住みよいまちづくりを推進する
- ③心豊かな人間性、助け合いの精神を醸成する

■自治会に対する 世代間での意識の違い

（佐藤先生）

そういう意味では、冨増さんなんかが言うように、「自治会」みたいな組織の受け止め方も、世代によって違ってくるのかなと思います。そのあたりはどうなのかな。

（冨増さん）

さっき、先生いいこと言いましたよねえ！

（佐藤先生）

いいこと言った？

（冨増さん）

うん、昭和の時代の人間と、平成の時代の人間……というところは非常に分かりやすい。ここで……ちょっと僕、この対談に臨むにあたって勉強してきました。自治会の歴史っていうのを……

これはあの、たとえば戦争中には「♪とんとんとんからりんと隣組～」という歌がありましたでしょ。「♪まわしてちょうだい回覧板」とかね。その時代っていうのは、もう、国家が自治会を奨励するし、しっかり制度化して、行政の末端組織として位置づけたんですね。要するに自治会はほとんど強制加入だった時代があったわけですよ。

しかし、終戦を迎えますと、制度としての自治会は解体されて、「任意の団体ですよ」ということになりました。しかしこの自治会、戦時中に国家が強制した、とか言うとも聞こえが悪いですが、実際のところ、生活に便利な面もあったんですね。

回覧板をまわしているんな情報を知らせたりとか、あるいは困ったことがあっても隣同士、近所で助け合うとか……当時は隣保班といって、お葬式とかも全部、集落の中でやっていました。昔は隣近所で互いにお手伝いをするとか、そういう習慣があったものだから、国が、自治会はもう強制じゃないよ、任意でいいんだよ、と言っても、全然自治会の形は崩れなかった。連綿と続いてきたわけです。

ですから我々昭和生まれの人間は……昭和生まれというよりも、昭和の時代に家を建てたりして、それぞれの町の中に入って来た人間は、「自治会に入るのは当然」というのが頭にあるわけです。

だから、わが光風台第2自治会も、昭和の時代に自治会が結成されて、だんだん、新しい人……その当時30代から40代前半くらいの人たち……今はたぶん65歳前後の人たち……が入ってきた頃は、ほぼ加入率100%でしたよ。

第1回 オリエンテーション

それが、平成の時代になってどうなのかというと、文明……まあ今更「文明が発達した」なんて表現はしないでしょうけど、非常に便利な時代になってきました。

たとえば必要な情報はどんどん、外から手に入れられる。広報紙なんか届かなくても、回覧板なんかなくても、テレビから、パソコンから、携帯電話から……今はソーシャルネットワークというものもあるし、いろいろな手段で、指先でチョッとやるだけで、必要な情報を手に入れることができる。

それからだんだん**個人主義**になってきましたね。都会のマンション……長崎も、まちの方なら、まあ都会と言っていいと思いますが、最近のマンションなんかはすごくセキュリティがしっかりしていて、お隣が何をする人か、なんて全く分からないけれど、とにかくがんじがらめのオートロックシステムで守られているので、ある意味では安心して生活することができる。そして自分の部屋にこもってしまう。

そういったことで、今、自治会の必要性ということについては、すごく逆風が吹いているような状況にあるわけです。

他に困った問題としては、**個人情報に関する問題**というのがあります。うちの自治会も、昔から名簿を作ってきました。これを自治会で使っているんですか、必要によっては公開してもいいですね、とやるんですが、今は駄目だと言う人が増えたんですね。

こういふことで、名簿が作れない自治会も出てくる。うちの自治会も、昔は、名簿を作ったら全会員に配っていたんです。だから隣の人は何という人だか分かるし、そのときは、どこに勤めているかとかいうことまで書かれていたんです。

まあ今は、勤務先まで書いて配るなんて必要はないでしょうが、やっぱり、活動をする上で最低限必要な情報はありますよね。ですから、プライバシーを過度に主張する人は悩ましいところです。

それから、任意の団体だからといって、「入らない権利」を声高に主張して、「何を言うか、自由じゃないか」というような人たちもいます。

新興住宅地で言えば、今でも長崎のいろいろなところで開発が進んでいて、三重地区では豊洋台とかさくらの里というところが開発されているんですが、そこに新しく家を建てる人というのは、昔と変わらず、やはり30代から40代の、働き盛りの若い人たちです。

ですが、昔と比べて自治会に入らない人が多くなったという話を聞いています。こんなふうには、**世代によって随分と感覚が違ってきている**んですね。

講座の切り口の中にも、「次世代を巻き込むためには」というのがありますので、ぜひぜひそのあたりは、熱く語っていただきたいと思います。

(佐藤先生)

私が語るんじゃないですよ。皆さんで語っていただきたいんです。……そういったことで、今日二人で話したことが、皆さんたちの中でお話していただく過程のなかで、またいろんな形で浮かび上がってくる……というようにしていければいいのかなと思っています。

世代間での意識の違い

昭和世代

- 情報源
 - ・隣組(戦中)
 - ・回覧板
 - ・ご近所との会話から
- 近隣との関係
 - ・顔見知りの関係
 - ・冠婚葬祭のお手伝い
 - ・防犯は地域の目で



「自治会に入るのは当然」

平成世代

- 情報源
 - ・テレビ
 - ・パソコン
 - ・携帯電話
 - (ソーシャルネットワーク)
- 近隣との関係
 - ・個人主義、プライバシー意識
 - ・周囲に頼らず便利な生活
 - ・オートロックシステムで夜も安心



入らないのは「自由じゃないか」

第1回 オリエンテーション

■ 自治会と他の団体との連携について

(佐藤先生)

……時間がもう無くなってきましたので、二人の対談は、だいたいこの辺で終わりにしたいと思います。富増さん最後に何かありますか。

(富増さん)

んーあのね、今年度の各回のテーマには無いけれども、さきほどちょっと話が出ていたけれども、他の自治会との連携のやりかたですね。

小規模な自治会は一つだけじゃ予算の都合もあって自由にできないだろうから、同じ地区とか校区なんかでまとまってやるとうまくいくよという話を……ちよろつ、と先生がされたんですかね。

(佐藤先生)

言ったかもしれないね。

(富増さん)

それから市民活動の団体……

「市民団体」と言うとさ……こう、なんとなく、ちょっと変わった人たちが集まって「ナントカ反対！ ナントカはいらない！」みたいなことをうるさくやるイメージ(苦笑)があって、ともすれば、近寄りがたいと思われる方もいらっしやるかもしれませんが……

そういうのは昔のイメージで、まあ今もそういう人たちは多いんでしょうが、「市民団体」の中にも、地域のために貢献しよう、地域を良くしていこう、と活動している団体はいっぱいあると思います。

そこで、去年の講座では、他の市民団体と自治会とのかかわりは？ という切り口で討議をする回があったんだけど、個人的な印象では、いまいち盛り上がりなかった(苦笑)。

(佐藤先生)

なるほどね……

(富増さん)

なぜかと言うと、「自分の自治会だけでアップアップしとつとにね、NPOだとか、他の市民活動とかなんとかまで手が伸びんばい」ということみたいです。

ですがやっぱり自治会というのは、われわれ団塊の世代から見ても、どうも旧態依然としたところがある。言うなれば線香臭いところが(笑)あります。なんか御隠居さんの役員とか会長さん、というイメージがどうしてもある……

だから若い世代で、考え方の発想を変えてですね、やはり**広く連携**していく。これは絶対連携していかないと続かないと思うんですよね。なので、やはりこういう話もやってもらいたいと思います。

(富増さん)

そしてこうしたときに、自治会の立ち位置、ポジションをどこに置くのか、もしかすると、自治会がインシアティブをとっていくと、上手くいくこともあるのかなというような考え方が出てくるのかもしれない。

今日はコミュニティ推進室の皆さんがずらっと来ておりますから、この辺の話題には「いいこと言ってるな」と、きっと嬉しく思ってるんじゃないかと思うんですけどね。この辺もまた後の話ですね。

■自治会に求められること

(佐藤先生)

今回は二人でしゃべるという初の試みでございまして、本当はもっと笑いをとって、こうバコーンと行くつもりだったんですけども、最初で皆さん方に結構圧倒されまして……

こちら事務局サイドも、今日はなんだか声が小さかったもんですね。



いつもは事務局、「皆さーん！頑張りましょう！！」って調子なのに、今日は「皆さん……頑張りましょう……」っていう感じでした。

さて、ということで、これからいろいろなことをだんだんと進めて参ります。ライオンの檻に入っている豚さんのサトちゃんです。

えーと、私はですね、今日いろんな話を聞いていて……(受講生の)田中さんが言われたことが非常に印象に残っておりまして、田中さんは北海道から来られて……周りに誰もいない、じゃあ誰を頼ったらいいのかというとき、それを支えてくれた、受け皿になってくれたものがあったと。それが自治会だったという話でした。

自治会とは実はそういうものなんじゃないかなって。

……それが結論だと言ってしまおうと「今日第一回で、終了！」となってしまうんですけども、それほど、実は意味の深い言葉だったんじゃないかなと思うんです。

つまり自治会って、何かあるときとか、困ったことがふっと出てきたときに、そっと寄り添ってくれるっていう、振り向いたときにすぐそばにいてくれるというような、そんな存在っていうのが自治会って求められているところもあるんじゃないかと。

第1回 オリエンテーション

(佐藤先生)

先ほど、防災とか言っていた方がいましたが、何か突然、重大なことが起こったとき……そんなときにどう対応できるか。そのために自分たちの地域を知っていく。

その方の自治会ではすごかったですね、年齢構成まで全部きちんと調べられているそうですが……やはりそういうような、普段の努力とかそういうこともあるだろうし。

一方で「サトちゃんさ、そんなこと言うけどさ、もっと日々のいろんなことに追われているとさあ……」などというのも事実であります。

そんな状況で、悩みなんかを抱えつつうまくやりくりしているというようなところのいろんな話というのも、今後みなさんのお話の中で情報交換をやっていっていただきたいなと思っております。

(佐藤先生)

ということですみません、4人のサポーターの方にはお時間がほとんどございませんので、一応早めに一旦しめてもらって……あとは鶴の尾町自治会の山口会長に、取り組みをちょっと紹介していただけるということで、早めにちょっとしめましょう。

(事務局)

佐藤先生、富増さんありがとうございました。ではこれにて対談については終了とさせていただきます。……ということで、山口会長、お願いします。

(佐藤先生)

山口会長は今日これを喋りたくて来たからね！



第2回「自治会って、なんだ？」

1. グループ討議 & 発表

- ◆それぞれが抱える課題を出し合おう
- ◆市民活動と自治会との違いは？

2. まとめ・ふりかえり

3. 鶴の尾町活動紹介(熱中症対策)



グループ討議 & 発表

テーマ

「それぞれが抱える課題を出し合おう」

「市民活動と自治会の違いは？」



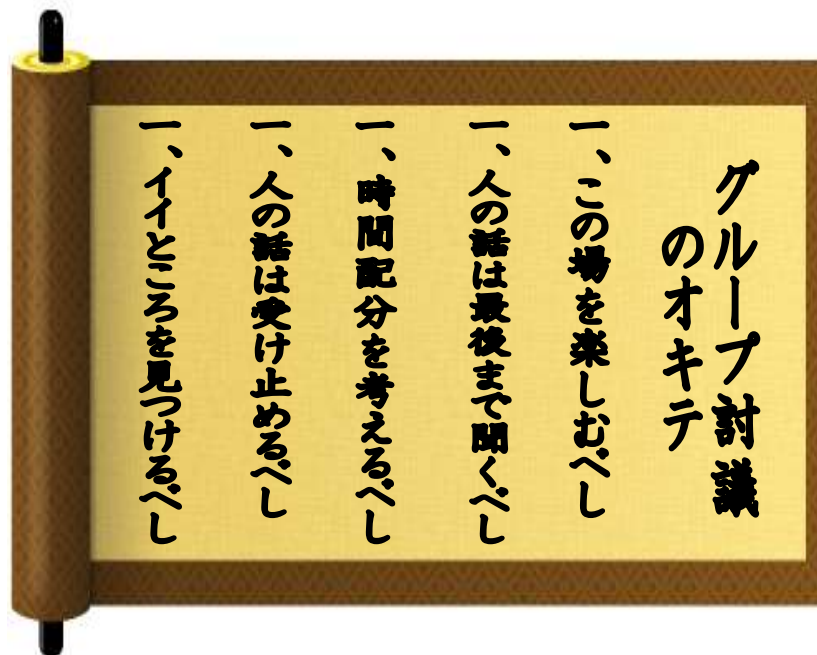
【佐藤先生】

さて、今回はそれぞれの自己紹介をしていただいたんですけど、今回は、グループに分かれて……それぞれの、皆様方の自治会のことについてお話しいただこうかなと思っています。

そして今日は、各グループにサポーターの方々が入っていただいて、進行役をしていただくことになっています。今日、この部屋に入ってきたときに感じた雰囲気でもわかるんですけども、まだ皆さん、グループの中でなじんでおられないところがあると思うんですね。一人ずつポツン……ポツン……という感じで。その点、サポーターの皆さんは、もう慣れちゃっておりますので、もうワイワイ、ワイワイ……すごく、雰囲気を作っていくてくれるだろうと思いますので、よろしくお願いします。

そしてちょっとここで、「グループ討議のオキテ」ということで、紹介させていただきます。

よろしいですか？ それでは、どうぞ！



グループ発表



では、とりあえず5つの班に、それぞれどんなことを話したかというのを、前に出てきてお話しただろうかと思います。

前後半で1時間半くらいずっと話していたことを、3分でまとめろというのは無理な話でしょうけれど……印象に残ったところだけでも結構ですので、こんな話が出たということを発表していただければいいですよ。

1班 発表

1班には、いきなり自治会長になった方がおられてですね、この会長が、ひとりで大変なんですけども、「やるときにはやるぞ！」とおっしゃって、みんなに背中を見せているそうです。

「間違えてもいいから、色んな役をやってみようよ」と。「みんなで支え合って頑張ろう」と、色んなところに出かけて行って、顔を出して、呼びかけています。

今の時期、ラジオ体操はどこでもやっていると思いますが、そんな機会も利用して、自治会の集会所でやるイベントの宣伝なんかをしたりして、盛り上げているみたいです。

「こんど絵手紙づくりをやるから、みんなおいで、夏休みの作品もそこで済んじゃうよ」というように、アピールをしているそうです。

……僕は話さない約束で前に出たんですけど、だいたい今おっしゃったようなことだと思います。会長さんが明るくやって、みんなを盛りたてて、ささえ合っていこうという雰囲気を作っていく。そしてそれをまた会長自ら、自治会はこんな活動やっていますという風に、地域のみなさん、子どもたちにもこまめに伝えていって……

そうすると町内でも「会長こんにちは」なんて挨拶が交わされるようになります。何よりもお互いに、いつもありがとう、という感謝が生まれます。理想ですが、こういう感謝、感謝の繰り返しで、自治会活動は続いていくんだと思いました。以上です。



5班 発表

どうもお疲れ様です。総じて言えますこととしては、各自治会とも、少子高齢化。そして加入率が芳しくない。

中身を分析したところ、少子高齢化は、もうどこでもそういう傾向があるようです。一方加入率は、アパート・マンションを多く抱えている自治会で、とくに少ない傾向があるようです。

この班で特筆すべきところとしては、県営アパートの自治会です。ここでは高齢化が特に進んでおりまして、自治会も一旦は解散という状態だったんですが、ここで、逆に老人会が元気を出して、まず老人会主体で自治会を再出発させたというお話です。もちろん色々な課題もあるわけですが、そういうお話を聞いていると、この少子高齢化の時代の流れの中では、老人がいかに活躍できるかということが重要になるのではないかと思います。

それと、市民活動と自治会の違いについてはですね、市民活動というのはどうしても、自分の趣味というか……サークル的な、共通の関心をもった人の活動です。

かたや自治会というのは、今度、市民大清掃がありますけれども、そういう、地域の中での催事とかイベントがいろいろありますが、それらに関して、極論しますと「嫌でも参加しないとイケない」(会場、苦笑)。

地域のコミュニティを維持するということでは考えたときには、やはりそれは避けては通れないようです。このようなところです。



• アパート・マンションの加入率が低い

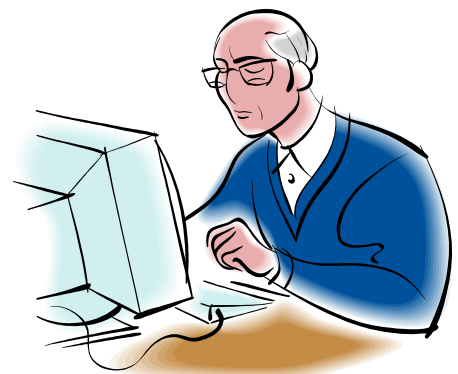
• 高齢化は必然

⇒高齢者にいかに活躍してもらうか？

• 市民活動⇒「趣味、したいことをやる」

• 自治会⇒（地域コミュニティの維持のためには）

「嫌なことでもやらなければいけない」



第2回「自治会って、なんだ？」

4班 発表



主題は「自治会ってなんだ？」ということでしたが、こちらでは具体的な話の方に熱中してしまいました。

楽しい自治会づくりということで、サロンの活用があるそうです。ご存じの方いらっしゃるかと思いますが、高齢者サロンの活用を図ったらどうかという意見が出ました。社協(社会福祉協議会)に聞いていただければわかると思いますので尋ねてみてください。補助金もあるそうです。

自治会の会長も、各部長も結構忙しくて、ひとりで何もかもしなければならぬという人が多いようです。

役割分担をして、色んな得意な分野をもった人が自治会にはいるわけですから、そういう人にやってもらって、子ども会とか……老人会とか……旅行とか、会計とか、公的な手続きとか、それぞれ詳しい人がいると思いますので、そういう人たちの力を

借りてはどうだろうかという意見ができました。

それから、細かいところですが、会費のお話もありました。千差万別でしょうが、うちの班では、月に300円、400円から上は1000円(おお、と声を上げる受講生あり)ということだそうです。皆さんの自治会でどう判断されるかはわかりませんが、一応、参考です。

それから、5班と同じですけれども、老人が非常に多いというお話です。しかしこちらでも、老人、老人と考えずに、逆に元気のある老人に頑張ってもらおうという発想でどうかという意見が出ていました。ダイヤモンド3丁目には麻雀クラブもあるそうです。大したものだなと思います。日本は、否応なしに老人の国になるわけですから、老人が動かないとどうしようもないわけです。

テーマの「自治会とは……」ということですが、正直なところあまりお話が出ませんでした。自治会を定義するのは、なかなか難しいと思います。その他色々な話をしまして、参考になりました。班の皆さんには誠に感謝いたします。ありがとうございました。

- 自治会長・役員の負担が大きい
 - ⇒一人の人に背負わせない役割分担
 - ⇒得意分野を活かした役割分担
- 高齢化
 - ⇒元気な高齢者に頑張ってもらおう
 - ⇒サロン(高齢者サロン)の活用

3班 発表

……ますます「自治会」というものがわからなくなりました。いろんな課題があるようです。課題としては、役員のなり手がいない。そして役員の中でも、役割分担が上手くいかず、一人に業務が偏っているのではないかと、という状況もあるようです。

組織の方では、自治会の事業について、行事に全く参加しない人から文句が出るというお話もございました。普段、何にも出て来ない人に限って、そんな行事は無駄だ、とかですね。会費は払っているので無視もできませんし、そういう色んな批判にうまく対応できず、組織としての活動が滞るという例もあります。

市民活動との違いということでは、市民活動というのは、ある程度理想があって、目的がはっきりしていて、それについてやる気のある人たちが集まって……研さんしながらやっていくというようなものですが、自治会の場合は、地域を良くしようというような抽象的な目的はありますが、市民活動のような明確なものはありません。やる気も……そうだと思います。未加入者対策については、自治会の活動をもっと知ってもらうということが大事だろうという話になりました。

最後、私が格好よく(笑)まとめますと、市民活動は目標に向かって志のある人が集まって取り組んでいく。

一方自治会は、次々と出てくる色々な地域の課題に沿って、活動していく。

これは嫌だ、面倒だということもありますが、逆に、地域に広く目を向けて、全部は難しいかもしれませんが、あらゆる問題を解決していくことができる可能性を秘めているということでもないのかなと思いました。

私もこの会で伺ったことを自治会活性化に活かせたらなと思います。うちの班の話としては以上のような感じです。



- 役員のなり手がいない、役割分担が難しい
- 行事に参加しない人からの批判
- 市民活動⇒特定の目標に向かって、志のある人が集まる
- 自治会 ⇒明確な目標が無く、メンバーのやる気も様々だが、地域のさまざまな問題を解決できる可能性がある

第2回「自治会って、なんだ？」

2班 発表

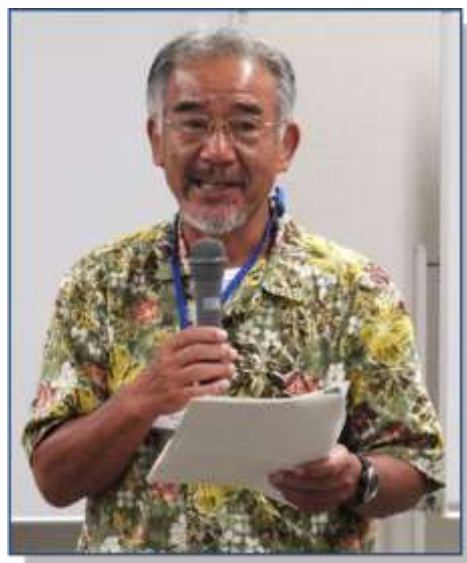
自治会の現状……このグループにも色々な自治会がありますが、どちらも、たとえば学生アパートを抱えた自治会があったりしますが、どうもなかなか上手くいかないというような状況だそうです。

それでどうにかしたいということですが、今日、私も勉強したんですけれども、やはり役員になって、会長なりなんなりを引き受けた場合……枝葉をどう広げていくかということで、活動のし易さも変わっていくんじゃないかと思います。

学生の力を利用するということでは、大学生の色々なサークルもありますし、イベントの運営に関しては、長崎市で、自治会の行事で出し物をやってくれるような人を派遣する人材バンクのようなこともやっています。こういったものをいかに利用していくかというところが一つポイントだと思います。

自治会内でも、人材をどう確保していくかというのが悩みになっているようですが、どこでも獲得のチャンスだろうというのが、退職者でしょう。こうした人にタイミング良く声をかけて自治会のスタッフに取り込んでいく、老後を地域活動にどうですかというかたちで……地域の心強い人材を拾っていくことができれば、よりよい活動ができるのかなと思います。

私はサポーターという立場でここにきておりますが、皆さんのお話を聞いて勉強という意味では同じですので、よろしくお願いします。以上です。



・「枝葉をいかにのばすか」

⇒学生サークル、いきいき地域サポーター

・人材の確保

⇒退職者の活用

⇒タイミングを見計らって、自治会に誘い込む

まとめ・ふりかえり



幅広く議論をしていただいたようですが、いかがでしたでしょうか。

1班から5班までの発表を聴くと……共通しているところとしては、「自治会ってなんだ？」については「やっぱり分からない」という様子ですね。

部屋の中をまわっていると、自治会のメリット・デメリット論が出て来たところもありました。……結論は「そうじゃないよね」「相互扶助というのが基盤じゃないか」ということになったようです。

そういうことを考える上で重要なのが「今、自分が住んでいる場所」がそれぞれの中で具体的にどういう意味をもつのか、というところで違ってくるということですね。

住んでいるまちが「ただ寝泊まりするだけの場所」であれば、あまり相互扶助という考えに至りません。ただどこかで、生活というか、生業というか、「その土地で生きていくんだ」という意識があれば、コミュニティという視点で、相互扶助の意識を持てる。こうなるとメリット・デメリットでは語れない自治会の意義というものが出てくるようになるわけです。

加入率の話もやはり出てきているんですけど、これについてはやはり……自治会がやっていることを見せる、可視化していくということが重要じゃないかというお話が出ていたと思います。「会長が背中を見せる」という表現をした方もいらっしゃいます。

背中を見せるのは、確かに非常に大事なことだと思いますが、一つ気をつけていただきたいのは、会長はみんなに背中を見せながら前進しているつもりでも、ふと後ろを振り返ってみたときには誰もいなかった、というような(会場笑)……そういう状態に陥る危険もあります。

そうならないために、人材になりそうな人を探すという話もありましたし、あるいは役員同士の役割分担をうまくやっていくのも大切ということでした。

そういう意味では、ひよっとすると、誰かが、どこかで自分を表現できる、関われる場を多く作ってあげるといっても、必要ではないかと思います。自治会に無関心な人が多いという問題がありましたが、それぞれの関心に沿って参加できる機会をより多く設けるところから、いい方向に持っていけるかもしれません。

しかし、そうすると、今度は会費の無駄だとか、費用対効果が、などと言う人が必ず出てくるというのも、悩みの種のようなものです。これは、先ほどのメリット・デメリット論と同じですが、経済価値の上でしか判断されていないわけです。

そういったところに関しては、自治会のことを語る上では、ちょっと違った見方で観る必要があるんじゃないかと思います。

参考までに「自治会の経緯」のメモを付けておきます。



第2回 「自治会って、なんだ？」

「自治会の経緯」

自治会は、現在、地域課題の解決や地域文化の継承、住民の親睦などの住民の主体的な活動を行うと共に、行政情報の伝達や行政からの依頼事項への対応など、行政の補助機関的な役割を果たし、他方で行政と住民の窓口として、要望活動をおこなってきた。

現在の自治会の姿を読み解くには、その設立経緯を踏まえる必要がある。

自治会の前身にあたる戦前の町内会は、明治以降、住民の自治的組織として自然と形成されてきましたが、昭和15年に内務省により制度化され、市町村の補助機関的な役割を果たしてきた。そのため、GHQによる戦後の民主化の過程で、いったんは解散させられた。

しかし、各地で配給品の配付や、地域の課題に取り組む必要から、地縁に基づく住民組織が新たに設置されたが、民主主義的な思想の影響により、自治会と称するところも多くなった。

設置の趣旨は、当然、住民主体の自治的な活動も含まれてはいましたが、実態は、戦前の町内会の影響もあり、行政の補助機関的な性格を併せ持つものとなったといわれる。

また、昭和40年代に、高度経済成長にともなう地域社会の衰退を受け、国がコミュニティ施策を打ち出したが、小学校区等をモデル的な区域と設定した。

これ以降、コミュニティ施策として、コミュニティセンターの設置、イベント開催などが実施され、交通安全、青少年健全育成等の行政の縦割り施策の受け皿として、自治会連合会がその役割を担い、自治会はその下部組織的な位置付けになるという基本構造が形成されてきた。

このため、現在の自治会は、

- ① 住民の自発的自治組織的性質
- ② 自治会連合会の下部組織的性質
- ③ 行政の補助機関的性質

の3つの性質を併有しているといえる。

そして、自発的活動とされているもののなかには、設立のきっかけが行政の主導によるものも多く、その活動が慣例化しているのが現状と思われる。

今後、自治会が、住民自治による真の自主的組織として成長していくためには、これまでの自治会と他の関係機関の関係を見直すとともに、地域住民が直面する課題を取り上げ、内発的な取組を中心に位置付けていくことが求められるといえる。

地方自治法260条の2第1項によって法人格を取得した地縁団体は、会員が世帯ではなく住民個人となることが明記されている。また、自治会の事例調査の結果、会員資格を世帯加入と思っている場合でも、規約上は個人加入となっていることがある。

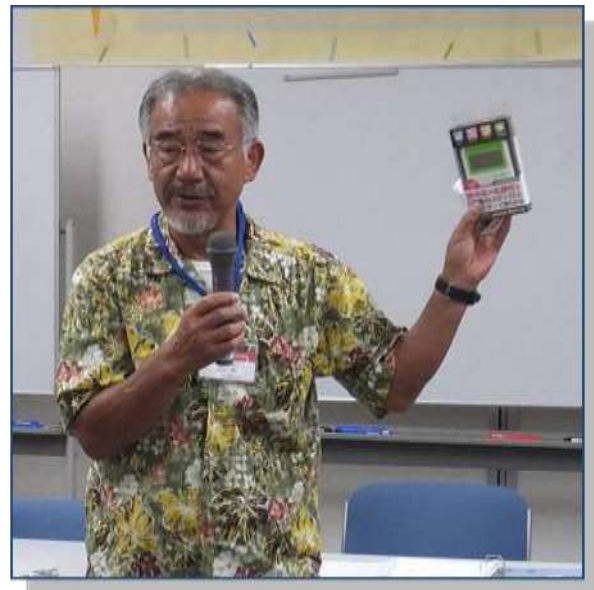


鶴の尾町自治会の活動紹介

(山口さん)

先日、NHKで、熱中症対策の番組をやっていたんですね。その中で、熱中症の危険性を5段階のLEDランプとブザーで知らせるという商品の紹介がありました。それを見て、うちの自治会でも使えるんじゃないかなということで、早速、店を何軒か回って買い集めました。いくつか種類がありますが、値段は980円からというところでした。大きなドラッグストアなんかに行けば、売っていると思います。

うちでは、「助っ人隊」ということで、有志が高齢者の生活支援をえています。その中の女性グループが高齢者向けに「健康体操教室」というものを行っているんですが、その中の参加者に配ったらどうか、という話になりました。



教室には会員が15人ほどいらっしゃるんですけども、会費の積立から買い揃えたということです。

早速、皆さんに配りまして、使い方も教えました。しばらくすると、電話がかかかってきて、「私は今まで、昼間もエアコンを使わずに我慢していたんですが、こういう(熱中症の危険が大きい)ところで過ごしていたんですねえ」とおっしゃる。

詳しく聞くと、家の中ではほとんど(警告のランプが)真っ赤だったそうです。私も試しに自宅で使ってみたところ、窓を閉め切った状態ではもう赤ランプ二つの「**嚴重警戒**」ですよ。窓を開けて「警戒」、エアコンを点けても、28度くらいだったらまだ黄色の「注意」でした。

赤になったらもう危ないですので、そういう場合は、変な我慢をせずエアコンをつけましょうということです。

これは結構いい反響がっておりますので、今度の市民大清掃あたりでも、また登場してもらおうかと考えています。

第2回「自治会って、なんだ？」 終了

第3回 自治会活動現地研修

- 1. 地域活動クラブ「草刈隊」**
- 2. ダイヤランド第3自治会の活動紹介**
- 3. ダイヤランド第3自治会 Q&A**



地域活動クラブ「草刈隊」

9月7日 朝、ダイヤモンド3丁目「オレンジの丘」付近の斜面に受講生が集合。
ここは、地域住民で環境美化に取り組むダイヤモンド3丁目「草刈隊」の活動場所です。



【コーディネーター：佐藤 快信 先生】

おはようございます。

今日は、ダイヤモンド研修ということでお越しいただいております。まちづくりに大事なことの一つは、人と人のネットワークをどうつくっていくかということです。

今日は、昨年の受講者からの参加してもらっております。これには、今年の方も一緒になって人脈を広げていただきたいという意図が、裏側のほうに隠れていますので、ぜひ、交流を深めていただきたいと思います。

今日は、ダイヤモンド第3自治会の活動報告ということでお話しいただきます。ですが、3丁目で行っていることを、皆さん方の自治会でもやってくださいね、ということではありません。それぞれの地域の状況は様々で、これまで積み上げられてきたものもたくさんあると思います。ですから、はっきりいって、この活動をうちもやろう、真似しようというのは無理な話でしょう。

活動そのものも、参考になるところはぜひ参考にさせていただければと思いますが、もっと大きな部分で、自治会が目指すところのイメージだとか、考え方、心意気のようなものを感じていただきたいなと思っております。

あとは、もう、会長の方に任せちゃいます。よろしくをお願いします。

【ダイヤモンド第3自治会 松島 孝造 会長】

みなさん、おはようございます！

今日は本当に、遠路はるばる……遠い所を3丁目まで来ていただきまして、ありがとうございます。

「草刈隊」をご覧いただくということで、こちらまでお越しいただいていますが、まず、簡単に「隊」ができた経緯を説明します。

ダイヤモンド第3自治会は、約40人くらいの役員で構成されています。役員は1年の輪番制です。ですから当然、1年経てば、代わります。しかしやっぱり、「せっかくな人がいるのに、1年で辞めてしまうのはもったないな」ということで、私たちは、自治会役員とは違ったかたちで、有志のボランティアによる「地域活動クラブ」というものをつくって、「自分たちのまちは、自分たちで良くしていこう」という考えのもと、活動しようということになりました。



第3回 自治会活動現地研修



「草刈隊」は、この「地域活動クラブ」の一環として立ち上げられ、毎週定期的に活動しています。この斜面は、以前は草や木が生い茂って「開かずの間」状態でした。でもせっかく見晴らしもいいところなので、何とか綺麗にして、公園のようにできないかと思って、市の土木維持課とも話し合いをして、少しずつやっ払いこうということになりました。それから地道に活動を続けて、今、こういうきれいな状態になってるということです。



この「草刈隊」の活動をするにあたって大切にしているのが、「できる人がやろう」ということです。「できる人が、できる範囲で、できることをする」。当番だとか義務だとかいう考え方をせず、できない人を批判しない。来ない人を責めない。皆さん事情があるんですから。「来る人たちで、一緒にやっ払いこう」と考えます。

だから、メンバーは50人くらいいますが、日々の参加率はまちまちです。作業の進み具合にもムラが出ます。ですがそういうことは関係なく、来れる人がやりましようということで、毎週やっています(夏の

暑い時期は少し休みますが)。毎回の積み重ねで、着実にきれいにしていけることができればよいということです。

この草刈隊の活動を通じてメンバー同士の親睦も深まって、忘年会とか花見・月見などをするのも、一ついいところで、こういうことを通じて、メンバーも増えていっています。

メンバーの年齢については、60・70歳が中心です。やはりどうしても高齢者が中心になります。若い人を入れれば続かんぞ、という声もありますが、若い人は忙しい。若い人が余裕を持って地域の活動に参加してくれる年齢になるまでは、自分たちでやるぞという気持ちで、メンバーには80くらいのお年寄りもいますけれども、頑張っけて活動を続けています。



経費については、どうしても草刈機の燃料とか何とかで、ある程度お金がかかります。基本的には、公園のトイレの掃除を「トイレ掃除隊」というかたちでやって、その委託料を市からもらうことで、賄っけています。トイレ1か所、月に1万5千円。3丁目では2か所掃除していますので、年間で36万円です。



第3回 自治会活動現地研修

～「立ち話ができる町」ダイヤランド3丁目～ ダイヤランド第3自治会の活動紹介

「草刈隊」の活動を見学した後は第3自治会の集会所へ移動し、第3自治会の活動について、映像を交えながら松島会長の説明を受けました。

① 地域活動クラブ(草刈隊・トイレ掃除隊)

自治会の役員は輪番制で、いわば「しかたなく」やってくるものと思われがち。

そこで、自治会とは別の組織として「やりたくて」集まる、「できる人ができるだけ、できるときに」を基本として立ち上げた、ダイヤランド3丁目のシンボリック活動。

② ガーデンさるく

自治会内でガーデニングを行っている家々の庭を、地域住民のふれあいの場として開放するイベント。参加者は、各家々の庭を鑑賞しながら歩いてまわる(長崎弁で「さるく」)。



【松島会長】

よく自治会の取り組みということで紹介されますが、自治会は主に広報活動をしたりとか、調整をしたりという仕事が主です。実際に動くのはもちろん、その家の人。皆さんの自然な協力で成り立つイベントです。

これがまた、普段から園芸をやっているような人には特に好評のようで……広報活動は自治会の内部でしかやっていなかったはずなのですが、どちらで聞いたのか、大村あたりから来られる方もいます。

③ ガーデニング教室

3丁目の公園に園芸の専門家を講師に招き、季節の花々の植付けを楽しみながら学ぶ。

④ ひまわりサロン(「高齢者ふれあいサロン」の3丁目版)

家にこもりがちな高齢者に、ふれあいの場を提供する。

また高齢者だけで集まるのではなく、若い世代との交流も図るため、毎週土曜日(年間 52 回)に、さまざまなイベントを開催している。

(例)「脳トレ健康麻雀」「ひなまつり」「グラウンドゴルフ」「AED 講習」「落語・漫才」
「花見」「カラオケ」「手芸」「住職の講演」

【松島会長】

補助金を受けて運営する「高齢者ふれあいサロン」を開設するにあたっては、まず、市の高齢者すこやか支援課に問い合わせ「サロンサポーター養成講座」を開いてもらう必要があります。「サポーター」がいないと、開設することはできません。サポーターになろうという人を何人でも募って、養成講座を、今は5回……だいたい1カ月半くらいかかりますけれども……これを受講してもらい、修了証を貰ってはじめて、「サロン」を開設することができます。

サロンは、毎週1回開催するという決まりになっています。お金のことを言いますと、長崎市からは一回につき4,000円補助金が出ます。つまり一年分だと約20万円。これが、年度初めに振り込まれますので、これを使って、開設にあたってくださいということです。

補助金ですので、用途については、やはりいろんな制限があります。たとえば飲食費。弁当を補助金で買って、参加者で食べようというのはダメです。ただし、弁当はダメなんですけれど、食材を買って、皆で料理を作って食べようというのは、いいんです。備品の購入にも制限がありますが、最近は少し緩やかになってきました。カラオケ会をやるので機器を買うというのもOKです。その他、詳しいことは、高齢者すこやか支援課に尋ねていただければと思います。

ただ、やはり「毎週続ける」という決まりは、少し大変ですね。まあ、続けてやらなければ「サロン」の趣旨に沿わないので……毎週違うことをやろうとすると、とても続きませんから、ある程度は固定でいいと思います。

うちでは、「脳トレ健康麻雀」と「手芸の会」を毎月続けています。「健康麻雀」というのは、賭けない・飲まない・吸わないというルールで、会話を楽しみながら脳を活性化しようという、知的ゲームとしての麻雀です。「一度やってみたかった」と入ってくる女性もおり、人気です。

残りはグラウンドゴルフとかカラオケとか、あるいはお寺の住職さんに来てもらって話をしてもらうとか、毎回知恵を出し合って、回覧板で人を集めながら、色々なことをやるようにしています。



第3回 自治会活動現地研修

⑤ ときわ会(老人会)

ますます高齢化していく3丁目で、一番頼りにできるのが老人会の先輩たち。
自治会役員との定期的な会合をもち、率直な意見を出し合う。

⑥ ささえ合いネットワーク

高齢者の日々の困りごとについて「できる人が手助けをしたい」との声からスタート。
“困りごとアンケート”を取り、その結果を受けて「それなら私ができます」と呼応した人たちがささえ合う活動。

(例)「家具の移動」「長期留守宅の草刈り」

⑦ 安心カード

長崎市が推進する活動。一人住まいの高齢者について、血液型や通院先、緊急連絡先などの情報をカードに記し、ケースに入れ冷蔵庫に保管して救急搬送に備えるもの。

3丁目は、対象を一人住まいの高齢者に限らず、高齢者夫婦などにも輪を広げている。

⑧ 子どもたちの思い出づくり

夏祭りの「子どもみこし」「お化け屋敷」、子ども会総会の「落語・漫才」「焼きそば」
クリスマス・もちつき会の「大学生との交流」「豚汁」、ひなまつりの「昔あそび」……

子ども会と協力してつくる
夏祭りの「お化け屋敷」は、
いつも大人気を博しています



⑨ 日帰り旅行

「子どもも大人も楽しめる」ことを重視して企画する。

(例)佐世保・海きらら 鳥栖・アウトレットモール 呼子・イカの生き造り
くだもの狩り、ビール工場見学……

⑩ かたろう会(長崎ウエスレヤン大学との共同事業)

自由参加の「住民座談会」をしたいとの声から始まった勉強会。

毎月、ウエスレヤン大学の先生の講義を聴きながら、一つ一つの自治会活動の意義等について考えていく。

【松島会長】

「かたろう会」でどういふことを語るのかと大雑把に言いますと、「弱み」を「強み」に変えていくような発想を勉強していきます。

説明しますと、まず、個人のレベルでは……皆さんにも一人ひとり、欠点とか、長所短所があると思います。この短所を、長所に変えるというような発想をしようじゃないかということをお勉強しているんです。たとえば僕の短所は「せっかち」です。じゃあ、これを長所に変えてみようと思うと、「積極性がある」とか(会場笑)。「行動が早い」とか……そういう考え方ができるわけです。

こういう「短所を長所に」「弱みを強みに」という考え方を、ウエスレヤン大学に、ベイ先生という方がいるんですが、その先生と一緒に考えていきます。

こんな考え方をしていけば、自治会活動でも、何か問題が起こった時に「〇〇があるからできません」ではなくて、「どうすればできるようになるのか」とプラスの発想ができていきます。

「高齢化」というのは、一般的に悪いことと考えられますが、そればかりでは無い。元気のいい方もいっぱいいる。現役時代に貴重な経験をして来られた方に活躍してもらえる。何かしたいと思っている団塊の世代が、町の中にたくさんいる……こういう発想です。

あとは、自治会の中の人間関係でも、頭ごなしに相手を否定するのではなくて、互いにいいところを見つけて、建設的な議論ができるような雰囲気になりました。

⑪ 備品の導入

60型大型テレビ(会議や懇親会に活用)、カラーコピー機(分かりやすい広報活動)

集会所への給水機設置(熱中症対策)、電子レンジ(懇親会で活躍)

丸テーブル(互いの顔が見える会議が実現。ターンテーブル付で懇親会にも重宝)

【松島会長】

たくさんの人に集会所に来てもらって、喜んでもらいたい。集会所を皆の交流の場所にしたい。そのために、集会所に色んな備品を入れていきます。

皆さんがいま座っている丸テーブルもそうです。今までは長机を並べて、下に座布団を敷いて会議をしていました。これでは互いの顔も見えづらいし、お年寄りの足腰には、少し堪えるところが

第3回 自治会活動現地研修

あります。そこで、丸テーブルを自作して、料理を載せるのにも便利なターンテーブルも付けました。そして椅子を、先の「サロン」のお金で50脚購入して、お互いの顔を見ながら椅子に座って話ができるようにしました。自治会の役員会・班長会もこのテーブルでやってます。

大型テレビも買いました。先の「サロン」のカラオケ等にも使っていますし、子どもを集めてアニメを上映したりとか、あとは、綾小路きみまろを呼ぶ……のはなかなか難しいので(笑)、その映像を流して皆で楽しむとか。オリンピックの時期には、集会所に集まって一緒に応援しましょう、とか。役員会・班長会でも、デジカメで撮った写真を映しながら報告や説明をしたりして、活用しています。

給水機は、業者が定期的にミネラルウォーターを補充してくれます。お湯も水も出ます。お年寄りが「サロン」で集まるので、熱中症対策というのが主な用途ですが、普段の会合でも懇親会でも大活躍します。



⑫ 若者たちとの交流・協力

- 子ども会：長崎大(落語研究会) 夏祭り：純心大・ウエスレヤン大(設営・出店応援)
- 敬老会：外語大(フラメンコ)、県立大(デザート)
- もちつき：ウエスレヤン大(集会所での宿泊応援)
- かたろう会：ウエスレヤン大(年間)、総科大(アンケート実施協力)

【松島会長】

学生のボランティアを紹介してくれる「Uーサポ」という仕組みがあります。(事務局は長大)行事の出し物などに悩んだときは、ここを通じて頼めば、落研の漫才とか、音楽とかフラメンコとか、料理の作り方を教えてくれるようなところとか、色んなサークルの学生を紹介してくれます。

⑬ 他団体の視察・研修の受け入れ

- ・熊本市、諫早市、佐世保市、韓国・中国の自治体からの視察
- ・長崎市新規採用職員研修
- ・日中韓三国学生文化交流(文部科学省)

⑭ 取材等

- (新聞)読売、長崎、西日本
- (テレビ)NHK、NIB、NCC、NBC、長崎ケーブルメディア
- 長崎市民FM(定例出演)、広報ながさき(長崎市広報紙)

【佐藤先生】

お時間ですので、午前中のまとめということで、少し話をさせていただこうと思います。まず今回のポイントの一つとしては、「草刈隊」のところで松島会長がおっしゃっていましたが「来ない人を責める、できない人を責める」のではなく、「できる人、来る人をほめる」という発想。「なんで来ないんだ」ではなく「来てくれてありがとう」。非常に大切なことだと思います。

それから……「ガーデンさるく」のお話のときでは……大村あたりからもお客さんが来るということでしたが、そういう地域外の人間を受け入れるということによって、「外から評価される」ということができる。

そうすることが、「自分たちのやっていることはどうなんだ」、そして「間違っていないんだ」という自信・確信につながっていきます。これを私たちは「オーナーシップ」と言っていますが、こういう意識が生まれると、自分たちの地域の活動にプライドを持って取り組んでいくことができます。

ここで、非常に重要なのが、開放性の問題なんですよ。オープンであるということです。「サロン」でも、「外の人も来ていいよ」ということで活動しているようです。どちらかと言えば自治会というのは閉鎖性をもつ組織ですが、こうやって、**開放するところと閉鎖的なところをうまく区別していきながら**、いい方向に進めていくというのが、非常に面白いと思います。

「面白い」ということで言えば、松島会長と山下さんの関係は非常に面白いですよ(笑)。二人で漫才をやっているみたいで……この関係というのも、**集団の中でどうチームを作っていくか**、思いを同じにする人をどう集めていくかという話にもできるんじゃないかと思います。

でも自治会で難しいのは、この思いを、他の人に押し付けるようになると、うまくいかないということです。押し付けはしないけれども、共有はしてもらいたい……こういう状態をどう作っていくかというのも、……私が、今日、勉強したことでございます(笑)。

「かたろう会」の話もありました。地域のことについて、教員を呼んでテーブルを囲みながら考えていくわけですが、それを受け入れる地域というのがすごいですね。決して、コーディネートをしているウエスレヤンの教員がすごいわけではありません。「こういうことをやってみよう」と考えることができる自治会、**受け入れることができる地域**というのは、素晴らしいと思います。皆さんも、地域に戻られたら、こういう自治会があるんだということを、ぜひ、お話しください。

そういうところで、午前の部は以上としましょう。お疲れさまでした。



ダイヤランド第3自治会へのQ & A

受講後アンケートで出されたダイヤランド第3自治会への質問と、松島会長による回答を掲載します。

【Q1：受講生】

新しい活動を立ち上げようとするときには、会員の理解を得ながら進めていくことが大切だと思います。立ち上げに至るまでの過程を教えてください。

【A1：松島会長】

新しい活動を立ち上げようとするとき、たとえば会議の場などでいきなり発案すると、どうしても皆さん、戸惑ってしまいます。事前に賛同協力してくれる人をできるだけ多く探して、ある程度話をしておくことが大切です。

反対意見も出るとは思いますが、「何もしないより一度試しませんか」「悪ければ止めて、また皆で考えましょう」というように建設的な方向に進めることができればいいと思います。

【Q2】

私たちの自治会は会員数が少ない自治会です。日頃から何かと支出が多くて予備費が貯まりません。ダイヤランド第3自治会では、寄付金や後援会などの支出はどのようにされていますか。

【A2】

年間の支出としては、

- ・まちづくり協議会： 25,000円（1世帯あたり50円）
- ・防犯協会： 50,000円（1世帯あたり100円）
- ・青少年健全育成協議会： 9,000円

なお、消防後援会費は、出していません。募金は、班長さんを通じて集めてもらいます。

【Q3】

ダイヤランドは、危険な箇所もなく、まちの隅々まで緊急車両が出入りでき、防災に関してはあまり心配ないと思います。では防犯の面では、どのような取り組みを行っているのでしょうか。

【A3】

小学生の登下校の時間帯にあわせて、ダイヤランド全体で「青色回転灯防犯パトロール」を実施しています。主なメンバーは、地域の有志や保護者です。

また、夏には「子どもを守るネットワーク」と一緒になって夜間パトロールを行います。自治会では、年末夜警を毎年12月27日に実施します。

【Q4】

松島会長は、就任されてから1、2年の間に、地域の皆さんを刺激し、導きながら集会所を改良したり、ふれあい・交流の場づくりを進めてこられたようですが、そもそものいきさつは一体どんなところから始まったのだろう、と素朴な思いがあります。

【A4】

前自治会長が17年間在職され、もうすることがないとおっしゃって辞めていかれました。私はそれを引き継ぐ一方で、住んでいる人がもっと、友達の関係になれるような仲間づくりの活動ができればいいと考えて、新しいクラブや行事を積極的に行いました。社会福祉協議会や、高齢者すこやか支援課、ウエスレヤン大学、U-サポ（学生地域連携活動支援事業：長崎大学が事務局）など、色々などところから知恵をもらって、実行していきました。

【Q5】

寝たきり老人をなくす「サロン（高齢者サロン）」について、再度要点をお教えてください。

【Q6】

「サロン」は、自分で歩くことができる人に、外に出て集会所に来てもらう活動だと言っていると思います。どうしても、体が弱い人の参加は無理があると思います。

皆さんが興味をもっていることを聞き出して、活動の内容を決めていきます。3丁目では、手芸とかカラオケ、麻雀、グラウンドゴルフなど、毎回色々な内容で開催します。

【Q7】

全てにおいてうらやましい活動をされていてパーフェクト！

しかしながら、ここに至るまでには色々な問題もあったと想定されますが、松島会長・山下副会長の強い信念とリーダーシップがあればこそと思います。

私としては、これからダイヤランド第3自治会がどのような手順で自主防災組織を構築されるのか、とても興味があります。結成されましたら是非ご紹介いただきたいと思います。

【A7】

自主防災組織は11月に立ち上げる予定です。まず、住民に防災に関する知識を深めてもらうため、10月下旬の「ふれあいセンターまつり」の会場に「防災体験ひろば」を開設。煙体験、消火器の使い方、応急処置の仕方などを、南消防署の方に依頼して行います。

11月下旬には防犯・防災パレードを行います。長崎県に1台しかない地震体験車を予約して、消防団や气象台、高齢者すこやか支援課に応援してもらう予定です。

第3回「自治会って、なんだ？」終了

第4回 加入促進・活性化

1. 女の都「ささえあいネットワーク」
2. 全体討論・グループ討議・発表
3. まとめ・ふりかえり



女の都「ささえあいネットワーク」

【コーディネーター：佐藤 快信 先生】

皆さん、おはようございます。えーっと、元気ですか(笑)！ 大丈夫ですね。

今日はちょっと参加率がいまひとつのようですが、来ていただいている方を見ておきますと、講座が始まる前からいろいろと情報交換をされているようで、そういう意味では、人的ネットワークが作られつつあるんだろうな、と思っております。

前はダイヤモンド3丁目におじゃましました。いろんな活動をされていましたが、とても有意義な情報交換ができたのではないかと思います。そういう交流、ネットワークがとても大切です。

今日は、加入促進とか、そういったところをグループ討議で話していただくわけですが、その前に。

いつもとやり方を変えまして、まず女の都の小田さんに、10分くらい自治会活動の紹介をしていただこうと思います。資料を既にお配りしているかと思しますので、それをちょっと出していただいてから、お聴きください。

そのお話を踏まえながら、今日は、自治会活動を具体的にどう盛り上げていく、といった話ができるばいいのかなと思っております。では小田さん、よろしくお願ひします。



ご紹介いただきましたサポーターの小田です。

本日の講座のテーマであります「自治会活動に参加しない理由・参加してもらうためには」のグループ討議の前に、話し合いのご参考として、女の都で経験したことについて10分間お話ししますのでよろしくお願ひします。

はじめに、自治会活動に参加しない理由として挙げられている項目を列挙してみました。これは、平成20年度第2回地域づくり担い手講

座のグループ討議の中で出された項目です。

自治会活動をする上で、参加しない理由を正確につかむことは大切ですが、参加しない人にはいろいろな人生経験のなかで、参加しないという理屈をもって生活されていますから、その人たちにどうしたら参加してもらえるかについて力を使うのより、どうしたらその人たちが自治会活動に目を向けてくれるか考えて自分たちでできる活動を考えた方がよいのではないかと私は思っています。

参加しない理由

(第2回地域づくり担い手講座から)

- メリットがない
- 会費が払えない
- エゴ
- 困らない
- 迷惑をかける等

第4回 加入促進・活性化

それでは、参加してもらうための条件を3つ考えてみました。

1つは、それぞれの自治会が抱える課題、住民の皆さんの関心がどこにあるかを掴み、みんなに「あっ、そうなんだ」と納得させることだろうと思っています。

次に、大切なのは、いつも参加者を増やす、輪を広げることを意識して自分たちから壁を作らないように気を付けること。

最後に、活動する以上、手抜きせず、真剣に取り組むことが大切と思っています。

参加してもらうためには

- 課題の明確化(見える化)
- 壁を作らない
- 手抜きせず誠実に

課題の明確化についてお話しします。

課題の明確化(見える化)の方法としてアンケートの実施の実例についてお話しします。

私たちの自治会の部長会では、「自治会行事への参加が少ない。決まった人しか参加しない」ということがよく問題になっていた折、会議の話題のなかで「一人暮らしになって女の都を出ていく人が多い。空き家が目立つ」という意見が出ました。

そこで、平成17年1月に、自治会の皆さんが何故女の都に住めないと思っているのか、どんなことに困っておられるのかをつかむために町民アンケートを行うことになりました。班長さんを通じて自治会全世帯(600世帯)に配布し、50世帯から回答を戴きました。内容は、ショッピングセンターがなくなって買い物が不便、電球の取替えができない、ごみ出しが大変など高齢化に関するものが多く出されました。

課題の明確化(見える化)
アンケートの実施
(日常生活で困っていること)

- ショッピングセンターがなくなって買い物が不便
- 電球の取替えができないという人がいる
- ごみ出しが大変
- 公園清掃に参加できない

高齢化に伴う課題が多い

同じ平成17年12月にもう少し内容を深めるために2回目のアンケートを行いました。その中で、ご近所のごみ出しの手伝いや電球の取替えなど、あなたができることを教えてくださいとお尋ねをしたところ、82世帯、96名の方から協力できますとの返事がありました。

アンケートを取る時は、自治会活動には関心のない方が多いので、アンケートをとっても反応はあまりないだろうと思っていましたので、これだけたくさんの方が名乗りを上げていただいたことに大変びっくりもし、勇気づけられました。

第2回アンケートの結果
(あなたができること、特技を教えてください。)

- ご近所の方への声かけ(47人)
- ご近所のごみ出しの手伝い(34人) ※抜粋して掲載
- 児童の登下校の見守り(25人)
- 公園の花壇の手入れ(20人)
- 電球の取替え(17人)
- 水道のパッキンの取替え(13人)
- 生協の注文書記入のお手伝い(13人)

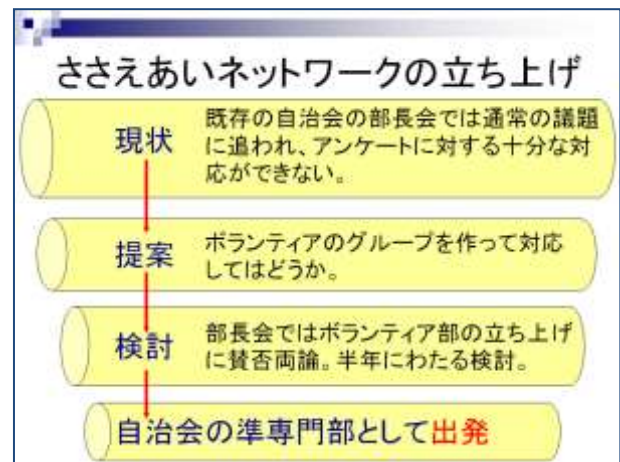
82世帯96名の方から「協力できます」との返事がありました。

ボランティアグループ「ささえあいネットワーク」の立ち上げまでの経過について説明します。

部長会では、通常の事業の処理に追われ、アンケートに示された要望に対してなかなかうまく対応ができませんでした。アンケート実施から半年過ぎたころ、ある組長さんから、“ボランティアグループを作って対応したらどうか”という提案を受け、立ち上げのための検討会を半年にわたって行いました。

しかし、ボランティア部の立ち上げには部長会のなかで賛否両論ありました。

反対意見は、1. ボランティアは自主的、自発的なもの、自治会とは別にできる人がやればよい、2. 雰囲気作りが大切、まだ機が熟していないなどでしたが、最終的にはアンケートに示された住民の皆さんの熱意や、“今やらんば手遅れ、5年も10年も待っておれんばい”という意見に背中をおされて、自治会長の裁断により最初は自治会の準専門部として出発することになりました。



ボランティアグループの説明をいたします。

ボランティアグループは、介護・看護の相談、買い物支援、電球の取り換えや庭木の伐採などのちょっとした家庭内の仕事、見守り、公園の花壇の手入れ、散歩・声かけ、ゴミ出し、広報の8グループに分かれて活動を始めました。



次に課題について説明します。

活動を始めてみると、買い物支援などアンケートに示された要望は比較的多かったのですが、利用となると「100円でもお金をとってくれたら利用しやすい、なんとか自分でできるうちは自分の力で」など実際の利用には思ったようには、結び付きませんでした。

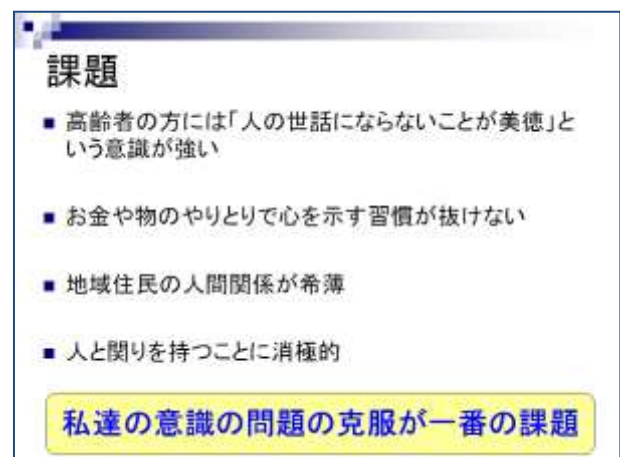
グループ長会議で何故なのか意見交換し、高齢者の方には、人の世話にならない事が美徳という意識が強い。

お金や物のやり取りで心を示す習慣が抜けない。

地域住民の人間関係が希薄。

人とかかわりを持つことに消極的。

など、私たちの意識の問題の克服が一番の課題ではないかと考えました。



第4回 加入促進・活性化

ここから、「壁を作らない」地域の個人、他の団体との協働の話に移ります。

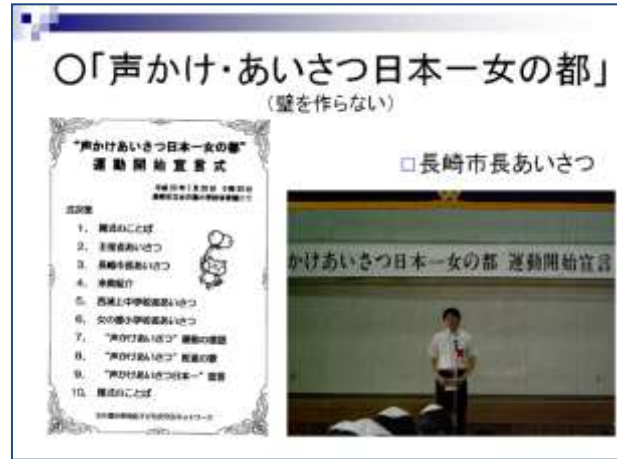
住民同士の間関係の融和を図るという原点に戻って、あいさつ運動を推進しようということになり、女の都小学校区子どもを守るネットワークに呼び掛けて「声かけ・あいさつ日本一女の都」の運動にとりくみました。

スライドは「運動開始宣言式」の様で、田上市長からあいさつをいただいている場面です。宣言式に合わせて、街頭に120本、幟を設置しまし

た。設置には女の都西部自治会、育成協、育友会、おやじの会、女の都小学校の教頭先生などいろいろな立場の人の参加でおこないました。また、女の都地区全自治会、保育園、幼稚園、郵便局、特別養護老人ホームなど合計150本の幟を設置しました。

あいさつ運動の資金は長崎県社会福祉協議会からの助成金と女の都青い鳥保育園からご寄附等で賄いました。

地域は様々な団体個人の集まりです。あいさつ運動という地域にとって大切と思えることでも賛否両論がでできます。大事なことは、自分たちの方から壁を作らず、手順を踏んで、できることから、できる人たちと一緒に力を合わせて動き出すということをおこなうことを通じて学びました。

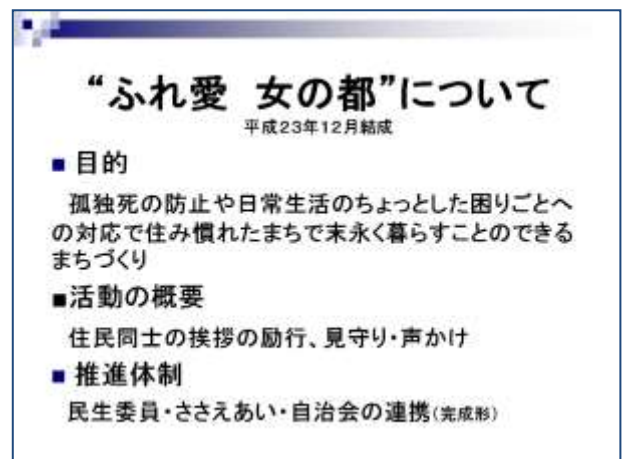


次に、「手抜きしない誠実に」ということについてお話しします。スライドは、長崎県立大学シーボルト校で行われた女の都ファミリー音楽会 in クリスマスの様子です。

あいさつ日本一女の都運動のなかで運動推進のための歌ができました。作詞のアンダソン・幸子さんは、当時西浦上・三川地区包括支援センターにお勤めの看護師さん。作曲者は三輪宣彦さんはシーボルト校の名誉教授です。

この音楽会は、女の都の若いお母さんたちの頑張り、で、昨年で5回、毎年続いてきています。

最後に、平成23年12月から、民生委員・ささえ合いネットワーク・自治会の連携組織“ふれ愛 女の都”ができ、一人暮らしの人たちへの見守り体制が強化されました。ボランティアグループの立ち上げから7年、形としては、一応完成した体制ができ上がって来たのではないかと考えています。



全体討論・グループ討議・発表

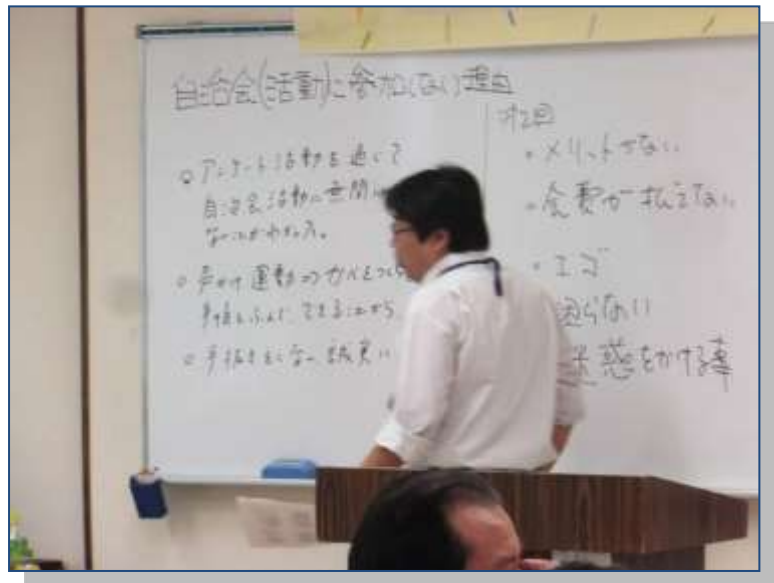
【佐藤先生】



ありがとうございました。さあ、今日は「加入促進」ということで、どうして自治会に入らないんだ、とか参加してもらうにはどうしよう、ということまで話をしていくわけですが……自治会に入らない理由……小田さんに、資料の方で少し挙げていただいておりますけれども、少し書き出してみます。

- ・メリットが無い
- ・会費が払えない
- ・エゴ
- ・困らない
- ・迷惑をかける

この他に、「こんな話があった」とか、「うちの自治会ではこんな人がいた」というものがあれば、少し発表してみてください。(挙手をする受講生)……はい、どうぞ！



「役員になりたくない」

他には？

- 「アパートに住んでいて、すぐに引っ越すから」
- 「面倒くさい！」
- 「人間関係がわずらわしい」
- 「周りに関わりたくない」
- 「自治会の中に、嫌な人がいる」



……だいたい、こんなところでしょうか？

あとは、こうしたところを出発点として、グループの中で他には無いか確認してください。

そして今日の目標としては、最終的に、どういうふうになれば、こういった考え方を解消していけるかどうか、自治会に関心を持ってもらえるかというところではないかと思えます。そういうことで、お話しいただきたいと思えます。では、どうぞ。

グループ発表

5班 発表

お疲れ様です。5班の発表を行います。まあ、自治会に入らない理由……これに関しては、ホワイトボードに書いているような内容がほとんどですね。メリットが無いとか……

それぞれの自治会の状況としては、私たちの自治会……皆様もだいたい、同じでしょうけれども「高齢化」というのが非常に進んでいます。それから、非常に関心が無い。自治会というか、お互いに関心が無い。ともすれば、できるだけ関わらないようにしようという印象さえ受けるようです。



他にあった話としては、自治会長自身が高齢化しているという……

高齢というのは必ずしも悪いことではないのですが、中には非常に保守的になってしまっているところとかもあるようでして……そういうところからは、新しい考え方は出てこないんじゃないかなと。

そういう中で、加入促進の切り口としては、防災とか、救急講座とか。やはり皆さん、自分自身にも必ず関わってくるようなことから、自治会に巻き込んでいけるんじゃないかという話が出ています。もちろん、なかなか思い通りにはいかないところがありますが。



- 役員も含めて自治会全体が高齢化
→非常に保守的な考え方になっている場合もある
- 加入促進
誰にでも必ず関わりのあること（防災・救急）
をきっかけに、自治会の必要性を訴える



4班 発表

4班の発表をします。まず自治会の加入……加入率です。だいたいどのくらいが目標かな？ という話になりました。皆さん、80%くらいを目標にしたいというところでした。長崎市では、全体で70%強というところだったようです（自治振興課註：72.6% H25.4.1 現在）。

次に加入させたい我々と、脱退する人の考え方の違いです。脱退する人は、「メリット」が無いと思って、辞めていく人が多いんだろうと思います。一方、私たちは、自治会は必要なのに何で辞めていく、あるいは入らないんだ、という気持ちでいます。

これは、やはり私たちの考えが伝わっていないんだろうと思います。自治会の必要性、「メリット」というのは、なかなか直接は感じにくいものだと思います。先ほど5班は、防災の話をしていらっしゃいましたが、そういうところから、具体的な話を交えながら、自治会の役割というのをアピールしていく必要があるんじゃないのか。地道に活動を続けることは大切ですが、それだけではなく、自治会の存在と一緒に伝える必要もあると思います。

会費がもったいないという人もいます。すると、これは「保険料」と思ってくださという説明をするんだというお話をされた方がいました。月に200円とか300円とかで、困った時には力になります、というように説明する。これは一ついい表現の仕方だろうと思います。

こういったところです。他にも細かいことはありますが、時間の関係上、これで……



- 加入率の目標？
→80%くらい
- 地道に活動を続けるだけでなく、
その活動を地域住民に伝えることが重要
- 会費は「保険料」



第4回 加入促進・活性化

3班 発表

こんにちは3班です。

「加入促進」ですが、うちの班では考え方をいくつかに分けました。運営、若者、シニア、そして自治会のエリアの話です。

運営についてですが、まず班の規模の適正化。大きすぎるところを分けて、班長の負担を減らしたり、役員候補を確保したりするということです。他には広報紙の配布方法の見直しなどもあります。

次には、普段の活動を大切にして、地道にやるということ。お祭りとか何とかに力を入れるのもいいですが、そうすると負担も増えます。地味だけど大切なことをしっかりと地道にやっていくということも、大事なことだと思います。

他には、自治会以外の団体との協力。ボランティアグループもたくさんありますし、学校と協力して、子どもたちを巻き込んでいくということもできるのではないかと思います。

次は若者の視点です。これは、夜に参加しやすい体制づくりが大切でしょう。役員会は必ず夜にやることです。

他には、企画段階から若者に入ってもらうなど、意見や発言をしやすい環境を整えるのも、関心を高めるためにはいいのではないかと思います。あるいはPTAや子ども会など、子ども、というところから自治会に巻き込んでいくのもいい手段だという意見がありました。

次はシニア世代。自治会とは別の組織で、ボランティアグループで活発に活動されている元気な方もたくさんいます。そういうところをうまく活かして、自治会の機能を補っていくようなことができればいいんじゃないかと思います。

次は、自治会のエリアの話。マンションやアパート、どうしていますか。公務員宿舎とか社宅の加入の話もありました。そんなところに住んでいる人でも、中には、入ってもいいという人も多いようです。ただ、アプローチが無いので未加入だった、あるいは、自治会がはじめからマンション等を想定していないというような話もあるようです。建物ごとまとめて入ってもらうのも一つの方法だと思います。

そして、こういうところに住んでいる人については、行事やイベントの話をして仕方が無い側面もあるでしょうから、ゴミステーションの管理の話など、日々の地道な活動をアピールすることを通じて、自治会への理解を促すという方法が効果的だという考え方がありました。



①運営

- ・ 班の規模の適正化
- ・ 地道な活動・他団体との連携

③シニア世代

- ・ 元気な方に活躍してもらおう

②若者

- ・ 勤務時間以降の会議
- ・ 発言機会の確保・子ども

④自治会のエリア

- ・ マンションやアパート
⇒地道な活動をアピール

1班 発表

時間がおしているようなので簡潔にいきます。

まず、脱会の理由として「自分は何もできないから」という話をした高齢者がいるそうです。そういう人には、そうじゃないんですよ、と言って何とか踏みとどまってもらわなければいけないと思います。鶴の尾には「助っ人隊」というのがいるそうです。助けられることは何も悪いことじゃない、遠慮は要らないということで、いろいろなお手伝いをしているということです。

もう一つは、マンションなんかには、なかなか訪問する機会がありませんが、そういうところに勧誘していくのはどうするか。誰かが音頭を取って……何人かで行くようにすればいいんじゃないかという話でした。一人では心細いし、あまり多すぎると、相手が嫌がるわけです。

最後は自治会長。自治会長がリーダーシップをとって、「我が町をこういうふうにしたい、しませんか」というように、率先して、元気を出して、引っ張っていこうという姿勢が大切じゃないかと思います。

こういうかたちで、まとめをさせていただきました。以上です。



- ・ 高齢者の脱退……「活動ができない」「何もできないから」
⇒助けられることは悪いことじゃないと説得
- ・ マンションやアパート
⇒音頭を取って、何人かで訪問（多すぎると良くない）
- ・ リーダーシップのとれる自治会長が必要

第4回 加入促進・活性化

2班 発表



私も簡潔に……2班では、主に4つの話題が出ていました。

まず、自治会の加入率を上げること。そしてなぜ、上げなければならないのかということ。

2つ目はマンション等の加入の問題。

3つ目は自治会の役割と意識のPR。

最後に、自治会と行政のタイアップ。今回はこれに的を絞って、話をさせていただきたいと思います。自治会の加入促進というのは、自治会も多大なエネルギーを要します。アパートやマンションの未加入者に加入を勧めていくのは、正直なところ、少し怖い面もあります。

また、未加入者は、ほとんど自治会の意義を理解していないところが、問題ではないかと思えます。あるいは、自治会が無くて不都合が無いと思っている。サポーターの富増さんは、そういう未加入者はフリーライダー(ただ乗り)だという風におっしゃっていました。不公平な現状があります。

こういう状況ですから、長崎市の方にも、もっと強かに自治会加入を勧めて頂けないかという面があります。たとえばマンションなんかは、建築について申請をする際、自治会加入を義務付け、まではいかないですが、強く推していただくようにするとか……そういったところを検討していただけないかなというところもあります。

- やはり、加入率を上げることは大切
⇒「フリーライダー(ただ乗り)」がいるのは不公平
- 未加入者は、自治会の意義を理解していない
⇒「自治会がなくても不都合がない」と思っている
- 行政とのタイアップ
⇒アパートやマンションの入居者への加入促進
⇒マンション等建築時の加入促進

まとめ・ふりかえり



①まず、防災のようなことを通じて自治会加入に繋げていくという話。単純に言えば、自分の生命に関係があることであれば、当然、誰でもある程度は関心を持ちます。逆に「俺には関係ないや」ということには、関心を持ちづらい。

一つの話としては、私は諫早で、防災のワークショップに参加しているんですが……個人情報に関して、保護法ができてからは、非常に厳しくなっています。しかし、ワークショップをやっていると「お前の所の父ちゃんは元気か」というような話から始まるんです。そして、それに「いやあ、もう実は寝たきりになってね」などと答える。防災のような話題になると、病気など、デリケートな部分もオープンになります。つまりこういう防災などの切り口が、ご近所づきあいとか、地域に関心を持ってもらう重要なものだと思います。

そのようにしてオープンな関係を作れば、自治会の中でもいい関係が築けていくんじゃないかと思います。防災というのは一つ、いいアプローチだと思います。

②続いて、メリットを強調するということ。とはいえ、加入者と未加入者の溝というのはどうしても埋まらないものがあって、どうしても平行線、水掛け論のようになってしまう部分があるかと思います。そういう意味では、もっと別の視点で……「メリット」「デメリット」では無い視点で自治会を語っていくことも、必要ではないかと思います。

面白いところとしては「会費は保険料」というところ。似たようなところでマンションとかの「共益費」という言葉があります。つまり自分たちの地域で……たとえば家の近くが草が伸びきって、ちょっと歩道にまで伸びてきているというようなとき。すぐに市役所に電話して刈ってもらおうというような人もいますが、自分の家のそばのことです。自分たちできれいにすりゃあいいじゃん、という話ですね。そういう、自分たちの地域が「自分たちの共有の場所」で「自分たちできれいにしていく」、「自分たちの地域を、自分たちで運営していく」という意識を持って、会費も、そのために必要な経費なんだよという考え方ができればいいのかなと思います。そのためには保険料とか共益費という考え方はいい考えだと思います。

③あとは加入率の話。80%くらいが目標じゃないかという話が出ました。具体的な数字が出たのは「担い手」で初めてだと思います。実のところ、具体的な数字で切るのは難しいだろうと思います。

ただ、大事なものは、活動をやっている方々を含めて住民がそれぞれ、ある程度は「お互いのことが見える」という人たちで、自治会を構成していくことだと思います。そういう意味では 80%という数字は、なかなか納得できる数字だなと思います。

今、講師をしている私の立場としては、やはり全員加入、自治会加入 100%だ！ と言わなければならぬところなんですけど、リアルな話としては、まずは 80%なら 80%、というようなところを目安として、それぞれの自治会がそれを目指していくというようなやり方もあるんじゃないでしょうか。



第5回 次世代育成・役員の話

1. 鶴の尾町自治会の活動紹介(男の会)
2. グループ討議 & 発表
 - ◆次世代を巻き込むためには
 - ◆役員体制と選出方法
 - ◆他団体との連携
3. まとめ・ふりかえり



鶴の尾町自治会の活動紹介



今日は第5回目の講座です。

グループ討議を行っていただくんですが、テーマとしては「次世代をどう巻き込んでいくか」というのが、今日の一つの大きいテーマになっています。

まあ、その前にはたぶん、若い人たちをドンドン活動に入れていくとか、役員の体制とか、他の団体との協力とか、色々な課題というものがあるかと思っています。サポーターの方とは事前に打ち合わせをしていますので、話をしていく中で、最終的には次世代の、たとえば若い人たちをどう巻き込んでいくかという話に流れていくでしょう。

今日はまず、そういったテーマに関連して、鶴の尾の山口会長に少しお話しただこうと思います。鶴の尾では「男の会」という取り組みをされているそうです。次世代もさることながら、自治会活動をやって……今日、この講座に集まられている方はほとんど男性なんですけど……実態としては、役員以外の男の方は、なかなか地域に出て来ないという部分があるかと思っています。

そういう実情の中で、それをどうしていこうか、ということで、一つの方策としてこの取り組みをされていますので、それを聞いた上で、グループ討議に入っていきたいと思っております。

【山口さん】

皆さん、おはようございます。今日は次世代、という話ですけれども、次世代の前に、まず自分たちはどうするんだ、という思いもあると思います。私は来年で65歳。昭和22～24年生まれのいわゆる「団塊の世代」です。この世代、全国で約700万いるそうですね。

それで、この700万人が、これから各地で「骨董品」扱いにされてくるわけです。これが果たして、単なる古びたアンティークになるのか、はたまたヴィンテージとなるのか……大きな違いがあります。

まあしかし、団塊の世代というのは、ちょっとした自負心を持っているんですね。「俺たちがやらなければ、誰がやるんだ」という……。私たちの力で、自治会にしても何にしても、後に繋いでいく必要があるな、ということ、常日頃から思っております。

それで、うちの鶴の尾団地の人口は約1,200人くらいですが、そのうち「団塊の世代」がざっと、160人くらいいるんですよ。そういう人たちを見ていると、やっぱりこう、あの退職したあとどうしようかな、どうしたらいいのかなということ、皆さん考えていらっしゃるようです。

そういった方のことを、私も含めて考えていたとき、ある人から丁度いいタイミングで「あのさ、会長」「退職してお互いに名前も知らんし、顔も知らん。もう少し地域を知らんばとじゃなからうか」「お互いに知り合えるような場を作ってもらえんדרらうか」と声をかけられました。



第5回 次世代育成・役員の話

その後、早速「鶴の尾を語る男の会」という名前で、会を立ち上げました。

第1回は、23名ほどの参加だったんですけども……まあ、飲み会ということで、酒とつまみをそれぞれが持ち寄って、お金をかけずにやりました。

それから回を重ねて、今はもう10回になりました。だいたい、毎回のメンバーは12～3名前後で落ち着いています。

皆さんやっぱり、現役時代は同じ仕事、職場で飲むことばかりだったようで、やっぱり、こう地域の人と、現役時代とは違う人たちと交流することに、非常に期待と関心をお持ちのようです。

最初は自己紹介ということで、どういうことに興味があるかアンケートを取ったんですけども、その結果がですね……やっぱり皆さん、まずは趣味や遊びですが、他には、いろいろな職業を経験した人の話を聞きたいとか、老後の生き方、そして人生の最後への覚悟。年金、健康……そして、肝心の**地域活動**。みなさん、やはり関心があるようで、「やれるなら、やっていきたいよね」という考えをお持ちでした。

我々団塊の世代というのは、そもそも数が多いですし、あるいは、個人的には、議論好きであったり、集団で何か大きなことをやりたい、悪く言えば群れたがるという面が強いように感じます。そういうエネルギーを、自治会活動、地域活動に向けられたら、いい影響が出るんじゃないかと思っています。

しかし、実態を見てみれば、退職してから、何もしていないという人が結構います。私は「退職難民」「退職漂流民」と言っているんですけども、退職した途端に、もう、まさに「漂う」ような感じで、目的もなく、毎日を過ごしている。仕事をバリバリして活躍していたはずの人が、今は家の中で、ほとんど引きこもりのようになってしまったとかいう話は結構珍しくありません。外に出るのは犬の散歩ぐらいとか……

でも本人はあんまり、危機感は無いです。むしろ奥さんの方に危機感があって、私に相談に來られたりした方もいます。

「会長さん、うちも『男の会』はいいなと思って、主人にもぜひ行け、行けと言ったんですけど『口が重かけん』と言い訳をしてなかなか動かないんです、会長さんからも言って下さい…」という具合で。

結局その方、最後は自分で動き出しましたが。

そういうことで、とにかく皆からエネルギーを集めて、そして地域デビューをしてもらって、そして、ゆくゆくは地域の、自治会の中核になってもらいたい、と。そのきっかけづくりが『男の会』であるわけです。

最近では女性の方からも『女の会』ってなかとですか？ なんてことを言われました。

最初は2ヶ月おきにやろうか、という計画でしたが、最初の飲み会で『2ヶ月も待てるもんか』ということになったので、今は毎月、頑張っています。

次世代以前に、というか、次世代のためにも、私たちの世代が、まずは頑張らんばいかんという気持ちで、続いてきています。

グループ討議 & 発表

テーマ

「次世代を巻き込むためには」

・役員体制と選出方法

・他団体との連携



はい、鶴の尾の『男の会』ということでしたが…

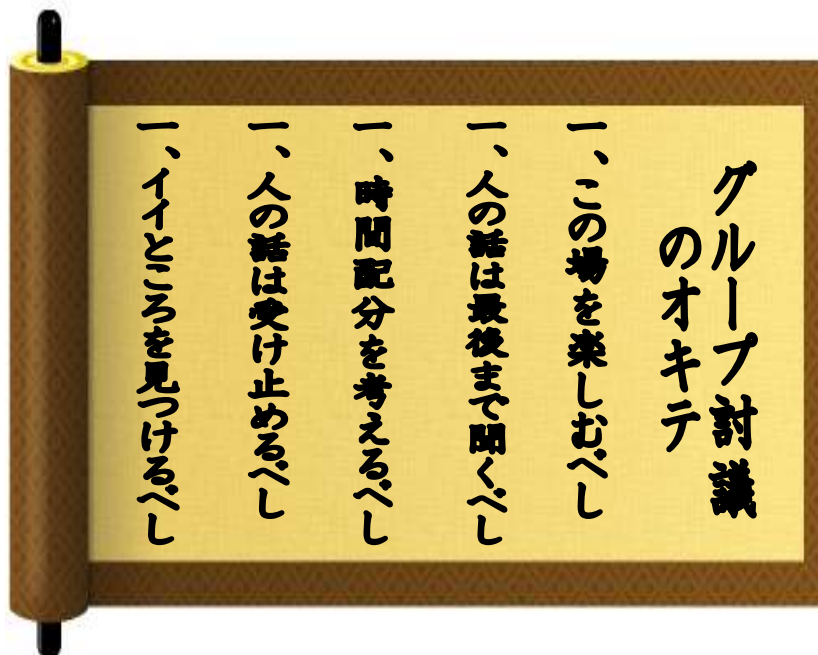
これは次世代もそうだけど、今、自分の周りにいる人たちをどう巻き込んでいくか、というところで、一つのいい事例だと思います。こういうやり方ができるわけですね。

それでは、これからは実際に各グループでお話しいただきます。

役員の問題とか、地域にいるいろいろな人をどう巻き込んでいくかというような話しながら、次世代にどうつなげていくか、というところを考えてみてください。

そして今日もこの「グループ討議のオキテ」、よろしく願います。

よろしいですか？ それでは、どうぞ！



グループ討議 のオキテ

- 一、この場を楽しむべし
- 一、人の話は最後まで聞くべし
- 一、時間配分を考えるべし
- 一、人の話は受け止めるべし
- 一、イイところを見つけるべし

グループ発表

1班 発表

どんなふうに役員を探していったらいいか？
ということで、いろんな仕掛けが出てきました。

まず、若い力をオブザーバーにして、子育て
をしている若い人から、意見をいっぱいもらおうと
いう、そういう方がいらっやいました。たとえばフ
リーマーケットなんかをやって、コミュニケーション
を図っていく。そこで、自治会の中で子どもを1
時間預かりますよとか、そんなふうに助け合うと
いうか……

それから、「自治会が子ども、子ども会に関わっていくことって、大事じゃないのかな」と言われた方
もおられました。今、子育ては、もう親の責任だろうという感じになっています。しかし、親も仕事しなが
ら大変ですよ。

でも、その子どもってというのは、地域で、自治会で育てれば、生きる力も人間力もそこで育まれてい
くんじゃないのかなと。ということで、まずは、自治会に入ってなくても、とりあえず来てくださいというこ
とで……自治会にはいろんな方がいて、遊びも勉強も教えることができます。そういう自治会での温か
い心のふれあいみたいなのが、ここで生まれてきて、人間力も育まれていく。将来につながっていく
んじゃないかな、と思いました。

他に、役員を発掘するチャンスなんですけども、あの……いろんなイベントの後に、やっぱり飲み会
じゃないかということで、飲み会で「一本釣り」していく。ということで、お酒をエサにして魚を釣る絵を描
いています。



さらに、退職した皆さんです。退職した
後も、その力を、皆のために使ってほ
しいですし、ご自身でもそう考えている方
は多いと思います。それをアンケートなど
で発掘していくという方法を取ってらっ
しやる場所があるそうです。

退職しても、なにも「人間が終わった」
訳じゃないので、そこで新しい出会いや
つながりのチャンスが生まれていくのか
な、と思いました。

【佐藤先生】



やっぱり参加するチャンスや機会を増やしていくのは、すごく大事なことなんじゃないかなと思います。

地域での子育て支援については、私も最近よく聞きます。

実は、今年の3月に卒業した私のゼミの学生が、卒業研究で「地域の中での子育て」というテーマでいろいろ調べていました。すると「先生、いろんな講話を聞くと、見ていくと、どうも子育てっていうよりも、親育てなんですよね」ということを言っていました。いろんな子育てに関する支援というのは、よくよく考えれば親に対してのものであって、子どもに対して直接何かするということは少ないですよね。

そういう意味では、私たちが言っている「子育て支援」というのは、本当は、その親たちをどうコミュニティの中に引き込むかっていうことじゃないかなって…。

それからあと、酒をエサにして一本釣りと……いやあ、素晴らしい、この表現……役員を発掘、というの、地域に埋もれている人材を掘り起こすという意味で、じつにいい表現です。

3班 発表



皆さんよくお話をされる方で、今回も盛り上がったので（一同笑）、ポイントだけ言います。

まず役員の関係なんですけど、とにかく、自治会は千差万別だということです。

体制、人数、任期、まちまち…その話を踏まえたうえで、一つ、役員を発掘するという話として、例えば地域で不審者が出たときに、その役員だけではなくて、他の方たちが一緒に応援に立ち上がって、その子どもを見守る体制を地域の中で作り上げたという例があるようです。普段出て

こない方も、例えば子どもに危険が及ぶとなれば、皆で一緒に守っていこう、という機運が出てきて、将来の役員になりそうな方が出てくるのではないか、ということです。

自治会の中で、防災もだし、不審者もですけど、自分や子どもの身に危険が及ぶような案件が出てくれば、役員だけじゃなく、他の人も出てきて、そういう形で気配りをし合う関係になって、ひいては将来の自治会の担い手も生まれてくるのかな、といういい意見がありました。

あと…居場所について。次世代を巻き込むためにはどうするかというところで、ダイヤモンドでサロンの話がありましたけど、そういうところで、知恵を出して若い方がちょっとでも参加できる居場所作りができるような工夫をしていくとか。

あとは、広報の話。せっかく一生懸命やっていることを、皆に知らせるのは大事です。話にあったのが、回覧板を配るときに、紙を何十枚も板に付けても誰も見ませんから、最初の一枚目にイラストを付けながらコンパクトに伝えるような工夫……行事の写真を載せたりとかですね。そういうふうな形で、広報の工夫をすることで、自治会活動に興味を持ってもらえるんじゃないかということでした。

第5回 次世代育成・役員の話



あの…さっき子育ての話をしたんですけども、実は文部科学省の方なんかでも、いろんな地域の課題が取り上げられています。実はその中でも一番は、防災なんです。だから、防災と子育てっていうのは、すごく地域にとっては重要な課題だと考えられているのかなと思います。

皆さんが言われたように、防災、子育て、それぞれどちらも、いろんな意味で人間の生に関わってことです。やっぱり、そういうものって皆さんの関心が非常に高いですね。

しかも、そういう課題について、地域の中で皆で助け合って生きていくということは、非常に重要な意味を持つてくると思います。そういう意味では、自治会で、そういうことについて仕掛けていくと、すごいアプローチになってくると思います。

5班 発表

私事ですが……かれこれ 10 年ほど自治会長させていただいてるんですが、つい最近までは、町内も非常に活気があったんです。けれどもだんだん過疎化、高齢化といいますか……団塊の世代の方も多数いらっしやったんですが、もうその世代の方もだんだんと少なくなっています。

自治会の運営についても、幸いなことに、うちは**事業所が多いところなので、そういう方々に協力をいただいて、何とか首が繋がっているような格好です。**

過疎化、高齢化というところは、私のところだけの話ではないようです。そんな中で、次の世代の自治会長、役員を見つけるというのは、みなさん非常に苦勞をされている。私ももう、今年で80歳になりましたんで、そろそろバトンタッチをした方が、自分にも町にもいいだろうということで、2、3年前からあちこち町内の方に呼びかけをしているんですが、あまり上手くいっていません。

ここで今日、鶴の尾の山口さんの意見、**退職者にアンケートをとるとか、語らいの場をつくる**とか、そういったご意見が、非常に私の心に響きました。



また私の町、浪の平地区の話ですが、去年あたりから、クルーズ客船が増えて……観光客の姿も見えるようになりました。岸壁を新しくする話もあります。他にもいろいろで、まちがどんどん変わろうとしています。すると自治会長も地域の代表ということで、色んなアンケートが来たり、資料を読まなければならなかったり、会議に出ないといけない場面もある。そういうことを考えると、やはり若くて体力があり、リーダーシップをとって**地域に活**を入れてくれる人が自治会長になった方がいいでしょう。やはり次の世代を見つけるのは、非常に大切な課題だと思います。



もう本当に、いろいろな自治会がありますよね。でも共通している問題はあるし、違うところはもちろん違う。自治会のような団体では特に、地域の外とのつながり、というのは非常に重要な意味をもってきます。もちろん中のつながりは大事ですが、**外とのつながり**の中で、比較して、自分はこうしよう、あるいはこれでいいんだと確かめるわけです。

そこで、この担い手講座って、いろんな地域から集まって、いろんな自治会が集まって話をするわけで……まさにこういう、いろいろな人が集まる中から、連携というのが生まれてくる。そして、それぞれの自治会の活性化というところに、たぶん繋がっていくのかなという思いがあります。

ま、単純に、面白いですよ。自分たちの中だけでやっている、という閉塞感とか、先行きの不安さというのを、**外部の刺激**によって払拭していくというか……そういう意義があるんだと思います。

2班 発表

まず、くんちの踊り町になっている自治会の話。くんちに関しては、1、2年前の時点から、準備を進めていかないと間に合いません。これはもう町ぐるみでやることですから、役員も当然、それを念頭に置いた上で決まっていきます。

若い人を引き込むというところでは、くんちというのは大人も子どもも参加するものですから、そういったつながりをうまく利用して「一本釣り」するようなかたちで引き込んでいきます。

他の自治会でも、その「一本釣り」……いろいろな取り組みをする中で、新たな人たちを発掘していくことを常日頃から考える。ああ、これは次の役員としてふさわしいんじゃないかなろうか、という人に目星を付けて、ひっぱり込んでいく、というようなやり方をとっていくのがいいのかなと思います。

次に、**活動拠点**をもつということ。うちの自治会には集会所というのがございません。空き交番を利用して会議なんかをしていますが、これはもう狭くて……とても皆さんが集まって、独自の取り組みなり、いろんなサークルとかそういった活動をする場がなかなかありません。

ただ、集会所をもつのも、小さな負担ではありません。そういった中で、この前行ったダイヤモンドでもそうですし、この会場もそうですが、**地区にはいろいろなセンターがありますから、それらをうまく活用していくと、活動も盛り上がり、自治会の団結にもつながっていく**と思います。

全部で50世帯ほどの地域で、現在25世帯が加入しているという小規模な自治会の話もございました。少ない世帯で自治会を作るということは、会費もそうでしょうけど、いろいろな面で大変だろうと思います。そんな自治会で会長になられて、住民のためということで、行政への働きかけをはじめ、いろいろなことをされたそうです。その中でやはり、街灯もついた、ゴミステーションの設置もしてもらった、といった**地道な取り組みが実際の成果として出てくると、また加入されていない皆さんも「やっぱり会員にならねばね」という考え**が出てきたそうです。やはり、こうした**基本的なところが**大事なんじゃないかと思います。



まとめ・ふりかえり



はい、では出た意見を整理してみますと……若い人から意見をもらうっていうのもそうだと思うんですけど…あと飲み会や、アンケートでもいいので、きっかけをつくる。

それから…**広報**。活動っていうものは……いくらい活動をしていても、知られていなければもったいないわけです。そういう意味で、目で見てわかりやすい**広報**っていうのは大事ですね。さっき回覧板のお話が出ましたが……ダイジェスト版みたいなのを作れば、わかりやすいかもしれません。

あと、**地域の伝統**。くちもそうですが、各地域にはいろいろな伝統があると思います。そういう伝統のあるところは、絆として伝えていくことがいいんじゃないですか、という話がありました。

あとは、いろいろな人を巻き込みながら、みんなで取り組みをしていくということに関して……私もですね、グループを作って、住民の方と一緒に、まっさらの状態から始めて、主体的に何かやっていくという試みをしたことがあります。

実は最初の1年目っていうのは、みんな何だかわけがわかんなくて、「とりあえず」参加していく。なんとなく、雰囲気を感じながら、1年目が過ぎていきます。

で、2年目になってくると「あ、こういうことか」と考えだす。

面白いのは3年目ぐらいの終わりぐらいになってくると、「こういうことをやってみたい」「これをやると面白そうね」というふうなことを、だんだん自分たちでやりたいようにやっていく。

いろんなアイデアが出て、「じゃあ、やってみたらいいんじゃない」という反応を続けていくと、だんだん、私に話す頻度も減ってきて、気づいたときには「あらそういえば誰が言ったっけ」みたいな…

そして4年目になると、もう私に関係なく、自由に進んでいきます。

やっぱり、何かをやる時に目標を持つというのは大事なことです。ところが、**一気に駆け上がる人が一人いても、みんな付いて来れなくなっちゃうんですよ**。やっぱり3年、4年くらいかかるんだという気持ちで、じわりじわりと……

鶴の尾の『男の会』もそうなんですよね。最初は、あいさつと、趣味なんかの話から始まって……地域活動、自治会の話が出てきたのは、最近になってからだそうです。

つまり最初の考えでは、全然違うような雰囲気の中だけど、でもそれをどこかのタイミングで、意識して投げかけると、いつの間にかそれが中心の話題に変わっていくだろうし、そうしたことから、自分たちが、口だけで言うとか、アンケートで参加するとか、関心があるということだけじゃなくて「何か一歩やってみよう」ということに繋がっていく。

本当にすぐ手をつけたい課題がある一方で、そういうグループとかを作っていくのには、**ある程度時間がかかるんだ**、ということを念頭に置かれた上で、活動を進めるといいんじゃないかと思います。

そこで大事なのは、自分と意気投合してくれるような人を見つけることです。

出会ってっていうんですか、ある意味、婚活みたいなもんですよね。そこでも、きっかけをつくる仕掛けというのが、大きな意味を持つてくると思います。

第5回 次世代育成・役員の話

第6回 公開講座

1. 一年間のふりかえり

2. ディスカッション『住み続けたいまちづくり』

【パネリスト】

1 班代表 田中 時枝さん

2 班代表 宮谷 恒次さん

3 班代表 松下 和生さん

5 班代表 宮崎 初己さん



一年間のふりかえり



【佐藤先生】

最後の講座になりました。今日はここ、メルカつきまちのホールで、公開講座というかたちで進めていきます。皆さんもそうだと思いますが……やはり緊張するところはあるんですけども、まあいつものような調子で、楽しくやっていきましょう。

それで、今日の進め方なんですけれども、まず第1部では、受講生の代表の方に、一年間のふりかえりをさせていただきます。そして第2部はディスカッション。最後に閉講式ということで進めていきます。

第2部の方では『住み続けたい町づくり』を大きいテーマとしながら、これから自治会、またはいち市民として、地域でどういうことをしていったらいいのかというようなことを……今年から講座に入っていた、サポーターの方々にも参加していただきながら、話をしていきたいと思います。

それでは第1回目の講座から、受講生の皆さんにふりかえっていただきます。
トップバッターは田中さんをお願いしています。よろしいでしょうか？

第1回講座 ふりかえり

【田中 時枝さん】

第1回目は、オリエンテーションと対談がありまして、対談のテーマは『地域における自治会の役割』ということでした。



まず、参加者全員による自己紹介がありまして、ほとんどの方が自治会の会長さんで、自分の住む地域の状況をよく把握されておられて、問題点もきっちり持っておられて……やはり、みなさん、自治会を、地域を何とかしなければいけないという熱い思いを、持っていらっしゃる感じが……

後半は佐藤先生と昨年の受講生のサポーターの富増さんによる対談がありました。

私は自治会長ではなく、ただの主婦なんですけど、地域に何かできることがあれば、自分の力を活かしたいなという思いで受講していたので、本当に皆さんの熱い思いに圧倒されるばかりでした。

第6回 公開講座



ありがとうございました。

第1回はですね、そういった意味でそれぞれのオリエンテーションというか発表という形で進めまして、それぞれの熱き思いを語っていただきました。

面白かったのが、私は『皆さんの自己紹介をお願いします』と言ったんですが、皆さんは自分自身のお話はあまりされないで、自分の背負っている自治会のことをいろいろ語っておられたんです。非常に、自治会に対する思いといいますか……意識が強い、ということを実感させられた、そういう回でございました。

それで……田中さん。今さっき「ただの主婦ですが」と言われましたけれども、田中さんが、第1回の自己紹介のときに言ったことを覚えていますか？ あんまり覚えてない？ あのですね、確か、田中さんの場合は、北海道から長崎の方に来られたということで、自分が地域に、どう馴染んでいくか、という思いでいたとき、ふと、自治会長さんがサポートしてくださったんだ、というようなことをお話しされていました。

やはり自治会というのは、住民と一番近い存在であって、何と言いますか…寄り添ってくれるというか…そういうところが、やはりすごく大事なことななだと思いました。

それじゃ次、第2回にいてみましょうか。よろしいでしょうか？ そしたら、次は松下さんですね。

第2回講座 ふりかえり【松下 和生さん】

はい。第2回は『自治会って、なんだ？』という、大きなテーマでした。

このテーマに向かって、前半はそれぞれの自治会が抱えている課題とか活動内容について、お互いに紹介し合うことから始まりまして、後半では、具体的に「自治会と市民活動団体の違い」を考えることなんかを切り口としながら、大きなテーマについて話し合っていました。

講座の最後にグループ発表がありましたので、印象に残ったものを要約して発表いたしますと、まず、『自治会って、なんだ？』っていう問いについては…結局、具体的な回答というのは出ませんでした。

ただ、話の中では自治会の課題がたくさん出てきて、それを簡単に紹介しますと、

1つ目が自治会活動を将来にわたって継続していくためにはどうすればよいのか、という問題。

それについては…まず**役員の人材確保**を進めていく。誰が役員になるのかということについては、特に、**退職者**をいかに取り込んでいくかというのを考えようという意見が多かったように思います。老人……老人と言え失礼かもしれませんが、**高齢の方**に、いかに**活躍の場**を作っていくかというのが大事なのかなということにもつながります。

また、**自治会長が一人で頑張り過ぎているのではないか**、という意見もありました。

頑張るのは非常に素晴らしいことだと思うのですが、**役員同士でうまく分担**していくとか、また地域のいろんなネットワークの力を借りながら、連携して活動する。

具体的には、地域にはいろんな得意分野を持っている方や団体がたくさんいらっしゃると思いますので、そういった方を活用するといった意見がありました。

2つ目が、**自治会の加入**についての話。

特にアパートとかマンションには、やはり、自治会に興味を持っている方が少ない傾向にあるという話がありました。

それについては、**対話、広報を促進**するという意見があります。

自治会に興味を持っていただくためにはどうすればいいかということについて、まずは、地道に自治会がやっていることを上手く知らせていくとか……派手なアピールもいいんですが、まずはやっていることを地道に伝えていくことが必要であると。

で、自治会に対して無関心の人が多いということにつきましては、それぞれの無関心の方々の……それぞれ関心事に沿って、その人たちが参加できるような機会をどうやって設けていくか、という意見もありました。

そして……自治会に加入するということは、会費を払う必要があるということですが、中には、会費の無駄だとか、費用対効果が云々とか言って、経済上の価値のみで判断する方がいらっしゃる。

ただ、自治会活動というのはむしろ、**金儲けとかそういう話ではなく、人と人の助け合い**ということに**本来の意義がある**と思いますので、そういう価値だけでは判断できないのではないかと、という考え方がありました。

もう一つのテーマは「市民活動団体と自治会の違いは何か」ということでして、まず市民活動団体は、お互いに、同じ趣味とか、同じ志を持った人が集まる団体です。外から見れば、楽しくワイワイやっているようなイメージもあります。

一方、自治会につきましては、どちらかといえば、たとえば地域の掃除とか……そういうふうには、ある意味では、**必要なことならば、たとえ面倒でもやらなければいけない**。会員からすれば、嫌でも参加しなければいけない、そういう側面もあるんだということでした。

しかしそれは、前向きに捉えますと、自治会は、同じ地域に住むという括りで、いろんな世代の、いろんな考えを持っている方がいらっしゃるということもできます。地域課題がたくさんある中で、それらのあらゆる課題を解決していく可能性を持った団体とも言えるんじゃないかというご意見です。



はい、ありがとうございました。(拍手)

第2回ではグループ討議も始まって、だんだんこのあたりから、講座の熱気というものが、グワーッと高まってきていたと思います。

さあ、それでは次は第3回の振り返りなのですが、第3回は、現地研修ということで、ダイヤランド3丁目の自治会にお邪魔しながら、いろいろな活動を見せていただきました。

で、その模様を、えっと、ケーブルテレビが取材に来てくれたということで、これをちょっと皆さんと一緒に観ることで、振り返りたいと思います。それじゃ、お願いします。

(映像省略)当日上映した画像は、インターネットで公開しています。

(URL) <http://youtu.be/ZQ0WdZ2WiHQ>

第6回 公開講座



さて映像を見ていただきましたが……やはり自治会の活動って地域によって色々、あると思うんですよ。ダイヤランド3丁目はものすごいことをやっているんで、普段自治会活動をされているような方は特に「自分には無理だよ」と逆に思っちゃうところです。

確かにダイヤランド3丁目の活動は、一つの理想形だとは思いますが、だからといって全ての自治会がね、同じことをやれるか？ そして、やれば地域は良くなるか？ っていうのは、やっぱり違っただろうと思います。

つまり、**それぞれの地域の事情**に合ったことを、やっていただくのが、やはりいい。

ただこの回で、非常に私の印象に残ったことは、「私の町」だとか、「私の地域」というような視点から、少し広げて、「私たちの町だ」とか、あるいは**外の人からの視点**も加えながら、非常に広がりを持ったものとして地域を捉えているという、その辺の意識面が、非常に印象に残りました。

それでは、第4回の方についてみましょうか。第4回は加入促進・活性化ということで、まあ、壁を作らない、手抜きをしない、誠実にやっていく……というようなことをテーマにしながらやりましたね。

第4回については、宮崎さんの方からお願いいたします。

第4回講座 ふりかえり【宮崎 初己さん】

はい、それでは4回の発表をさせていただきます。

加入促進・活性化ということで、第2回に続いてグループ討議をやったわけですけど、まず始めに、なぜ自治会に参加しないのか、加入しないのかということについての意見交換から始めました。

つまり、自治会に入らない人が何を言っているか？

まず1番目には、「自治会にメリットがない」

次は「会費が払えない」あるいは「参加できないから迷惑をかける」。

他には「アパートに住んでるから、すぐ引っ越す」とか。

果ては「別に困らない」「面倒くさい」「人間関係が煩わしい」「隣近所とあまり関わりたくない」。

「会長が嫌い」「役員の誰それが好かん」なんてのも……

こういうふうには列挙すると辛いものがありますが、でも、これが現実の姿じゃないかなと思います。

ちなみに平成25年の、長崎市の自治会加入率は73%弱ということでした。

ある班の意見としては、**自治会長自身や役員が非常に高齢になっている**という指摘がありました。

高齢だから悪いということではありませんが、やはり積極的な発想とか、行動力という点で、どうしても、自治会の魅力を向上させるのは難しいところがあるのではないかなということだそうです。

あるいは、**活動の保守化、マンネリ化**で、人が離れるばかりで新しい人が入ってこないというところ。その一つの終着点だと思うんですが、行事という行事は市民大清掃くらいで、年に1回の総会すらろくに開かれないとか、そういう自治会もあるという話を聞いた、という方もいらっしゃいました。

こういう状態では、「自治会」らしいコミュニケーションの構築は非常に難しいだろうと思います。

あとは、自治会のあり方について。

この講座では、先ほど放映されましたダイヤモンド3丁目とか、鶴の尾さんとか、女の都西部自治会とか、それぞれの自治会で活動されているサポーターの皆さんのお話も聞いて、いろいろな活動を紹介いただきました。

こうした、色んなものを取り入れて活発に活動する自治会がある一方、総会すら開かないところがあるという現実……これはどうしたものかな、と思えば、地域の事情もありますが、やっぱりその運営する、人。個人の資質や力量というものにも…それこそ、小さな自治会であればあるほど…左右されるところがあるんじゃないだろうか、と思います。

自治会長がリーダーシップを取って、「こういう自治会にしたい」と引っ張っていかないと、会員もなかなか動かないぞというような意見を出した方もいました。

もちろん、言うは易し、行うは難しということで、実際、自分の地域に帰ったとき、何ができるかと考えると、課題は多いと思います。まあ、できることから、一つずつ確実にやっていこうかというところですよ。



ありがとうございます。

この回ですごく私の印象に残っていることが一つありまして、要するに会費の話なんですけど、「**会費というのは、いったい何だろう?**」ということです。

するとある方からは「**保険料**」ですよ、とか。または「**共益費**」とか、そういう説明をすると、簡潔で理解も得やすいねというお話です。

先ほど言ったように、「私たちのまちだよな」というように、自分たちの地域というものを、もっと公共的に意識していこう、というような議論がなされていたのではないかと、思いました。

それでは第5回では、次世代育成とか役員の話をしてテーマとして、特に次世代をどう巻き込んでいくか、という話をしました。え…それでは、宮谷さんの方からお願いいたします。



第6回 公開講座

第5回講座 ふりかえり【宮谷 恒次さん】

先生がおっしゃいましたように、第5回のテーマは「次世代育成」と「役員の話」ということでした。

まず最初に、サポーター、鶴の尾の山口会長に「男の会」という取り組みを紹介してもらいました。

これは、定年退職を迎え、これからどうい生活方をしようかと考えている団塊世代の男性に対し、自治会内での交流の場を持って、将来的には自治会を担う人材を見つけよう、という取り組みです。

その後はそれを受けまして、グループ討議に入りました。

前半は役員体制と選出方法について話をしました。まあ、組織、人数、選出方法、任期。いずれも千差万別です。たとえば任期については、まあ、毎年交代というところもありますが、2～3年を任期とするところが多いかと思えます。

また選出方法については、会長たちによる指名という形で引き継ぐところもあるかと思えますけれども、それは、円滑に進む側面もありますが、組織が役員だけで閉鎖的になって、住民の自治会離れの一因になりうる一面もあるとの指摘もありました。

後半では、少し具体的な話に入りました。

次世代の育成というところで、一つ目は、鶴の尾「男の会」もそうですが、やはり退職者がターゲットだろうということです。これは、飲み会でも何でもいいですが、皆が集まる場で人材を「一本釣り」という考え方がありました。

また、「人がいない」とよく言いますが、本当に人がいないのかな？ ということです。「単に知らないだけ」という場合もありますよね。そこで、地域にどんな人がいるのか、お互いに知り合える機会を作るといい。これも「男の会」でやられていたことです。

若い人も結構いらっしゃると思います。例えば消防団などで、地域で頑張っている人なんかを、仕事との両立ができる仕組みを整えて、力になってもらうのが重要じゃないかと思えます。

一方、人口そのものが減っていつている時代の中で、あんまり手を広げすぎると……負担が増すばかりという声もあります。そこで小さい自治会においては、地元の同じような自治会どうして、合同でいろんな取り組みを模索していかないといけないんじゃないかというお話もございました。

他に興味深いところとしては、自治会に無関心な人が多いという話がでたところ…

普段は無関心でも、ひとたび地域で問題が起これば、みんな結束するという例がありました。そういう状況こそ、新しい人材が頭角を現すというか…たとえば防犯とか、防災とか、誰にでも関わってくる問題がきっかけになれば、普段は消極的な人も、参加せずにはいられない。そういう取り組みを通じて、自治会への関心も高めていけるのではないかということです。

最後に、広報の大切さです。自治会が行っていることを、明確に、はっきり分かるような広報をしていくことが大事だということです。メリット・デメリット論ではないんですが、やはり会費をいただいているわけですから、この使い道をはっきり示すのは責務だと思います。

やはり自治会に入りたくないとか辞めたいと思う一因には、お金のことに関する不信感というのが、結構あるんじゃないかと思えます。

ともすれば未加入者で「会費が役員の飲み会に消えているんだ」なんてことを決めつけて言う人がいるという話もありますから、そういう疑念を抱かれないように、明らかにしていこうということです。



はい、ありがとうございます。

私的に印象に残ったのは、「まあできることから、まずはやってみましょうよ」という精神とか、あとは、**いろんな人を巻き込む場**をどう作っていくかという話です。

一つは、参加の機会を増やしていくということなんですけれども、「場」をつくると言いますか、その**きっかけ**をつくっていくということが必要だと。そういう場を通しながら、仲間を見つけていくというようなことが大事なんだなというようなことを感じたところです。

今回は第1回から5回まで、だいたい「そもそも自治会ってなんだろうね」というものが根底にある中で、実際の活動を見に行き研修したり……あるいはグループ討議で、参加者、加入者を、どう増やしていくのか。さらには、その活動を活性化していくにはどうすればいいか。そしてゆくゆくは、活動の中心、つまり役員をどう確保していくかというようなことを、話し合ったということになるかと思います。

さて、このふりかえりを踏まえて、第2部の方に移っていきますが、ここで今年の講座の特色として、既に講座を修了していただいた方々から、サポーターという形で今年の講座に関わっていただき、グループ討議の中でも進行とか、ファシリテーションといいますか、そういったことをしていただいたことがありますので、第2部でも、そのサポーターの皆さんに登場していただくことにしております。

その第2部は、『**住み続けたいまちづくり**』ってどういうふうにしていったらいいんだろう？ っていうような大きいテーマですけれども、その中で自治会、またはその自治会員である市民というのはどういうことをしていったらいいのか？ というようなことについて、話を進めていきたいと思っています。

ではここで、いったん区切りたいと思います。



ディスカッション 『住み続けたいまちづくり』



【司会者】

それでは、準備が整いましたので、後半に移らせていただきます。

向かって左側。新たにご登壇いただきました5名の皆様は、前年度の講座の修了生であり、長崎市で設けております「いきいき地域サポーター制度」において、自治会運営サポーターとしてご活躍いただいている皆様です。

今年度の講座では、グループ討議の際に自治会役員としての経験を活かして、議論をより深めるサポートをしていただきました。今回のディスカッションでも、それぞれのご意見をお伺いいたします。それでは、進行は引き続き、佐藤先生をお願いいたします。

【佐藤先生】



はい、えっと、第2部でございます。サポーターの皆さん、よろしくお願いします。
まず、せっかく登場いただいたところなんですが…何か今日ちょっと緊張感があるんだよね。何かおかしいんだけどもね…ま、そういう中で進めてまいりましょう。

第1部では、とりあえず…ま、どういう講座であったかということをお話しましたが、これについて…まず今年参加された方、えっと…全体を通した形での感想というのが何かある？

……うん、感想、宮崎さん？ さっき話してちょっと足りなかったみたいだから、そこらへんのところをちょっと話してみただけませんか。

【宮崎さん】

◆まず、何かをやらないと始まらない

第1回目から参加させていただいて、それぞれ、サポーターの皆さんにもテーブルについていただいて、我々の意見をまとめたり、アドバイスをいただきましたが、そこでサポーターの皆さんの、それぞれの地区の話をお伺いすると、もう、これは、これは…羨ましいほど、活動しておられる。中にはテレビで紹介されたりとかも…

しかし一つ、自分のところでもできたことがありましてね。鶴の尾の、あの救急箱の話……緊急入院セットの話です。そういうのがあるといいですよ、と近所の人に言ったらそれを分かってもらえた。それから近くの100円ショップに、3人のおばあちゃんを連れて、買いに行ったんです。

そういうことで…何といいますか、サポーターの方々は…すごいバイタリティで…思うに、それぞれあの自分の地域でいろんなことを考えられて、で、ときには行政を巻き込みながら、本当にいいことをやられている。

で、まあ…自分自身の活動もそうなんですけど、もう愚痴ばかり、何も進んでないということで「**まず醜より始めよ**」じゃないですけど、まず、**何かをやらないと始まらない**というのが実感です。

あの…新年度からまた、気分も新たにですねこの…今回の講座で得た皆さんとの関わりとか知識で、自分のスキルも少しは上がりましたので、地域のために、何かこう今まで得たことを…お役に立てることができればいいな、という実感を持っています。以上です。

【松下さん】

◆子どもを大切に作る自治会にしていかなければ…

まず講座に参加したきっかけとして、自分の父親が自治会の役員をしまして…それで、一応役員なんだけれども、見ていると、ほとんど仕事という仕事はしていないような感じというか、おそらく自治会長さんが一人で頑張っているのかな、という印象を受けたものですから、そういう中で、自治会ってどんなものなのかなと、ちょっと興味が湧いてきたので、参加させていただきました。

一応、この中で一番若手ということで…ま、三十代半ばなんですけど。

そういう視点でいきますと、いろいろな課題がたくさんありますが、やはり、**次世代**を巻き込むという話が常に頭にありました。それで思ったこととしては…いろいろな課題があるけれど、自治会活動は、やはり**地域の身近な存在**として、まず明るくないといけない。少子化、少子化といいますけども、だからこそ将来は、子どもの声とか、**子どもを通じた地域のいろんな方のふれあい**の様子とか、そういったものが聞こえてくるような自治会に絶対していかないといけないのかなと思います。

そういうときに、やはりどうしても、若い方が…考え方はたくさんあると思うんですが、ちょっとでも参加できて、自治会を少しでも盛り上げていけるような体制があればいいと思います。

また、高齢化も進んでいますが、60歳を超えた方で元気な方も、地域の中にいっぱいいらっしゃるの、そういった方の力を借りながら、助け合っていくというのが大事なのかなということを非常に感じました。私も地元で、そういう視点を持って活動していけたらなと思いました。

第6回 公開講座

【佐藤先生】

ありがとうございます。どうですか。一つ、サポーターの皆さんのご意見は…？
たとえば自治会の元気の秘訣とかありませんか。なんでしょう。
やはり緊張があるのか…松島さんどうですか？

【松島さん】

◆苦情や困りごとは、自治会をアピールするチャンス

宮崎さんは、防災リーダーとしても、頑張っておられるんですけど、いっぽう自治会としては何をしたらいいのかな？ というのは、いろいろ挙げられると思うんですね。

実は、鶴の尾の山口さんもおっしゃって、僕も感心したんですけど、やはり、自治会長や役員になると、地域の細かい困りごとをよく相談されるようになると思います。

先日は僕のところにも困りごと…犬が放置されているから何とかしてくれんやろか、というのがありました。僕としては、そういうふうにならぬように自治会の会員から、苦情でもなんでも、いろんなことを言われたときには、むしろチャンスだと思っています。これは自治会をアピールするチャンスだと。

そういう人にこそちゃんと対応してあげると、やはり自治会の必要性というか、ありがたさというのがうまく伝わってくるんだと思います。

ねえ、山口さん、ね。それはもう、きっと山口さんが良く理解されてると思うので。どうですか。

【山口さん】

◆自治会こそが、ライフラインだ！

私のところでも、結構そういった相談があります。先日は、高齢者夫婦の奥さんから電話があつて「主人が、ちょっとひどく震えてるんですけども」と言ってきました。続いて「息子に言ったら、もう救急車だけは呼ぶなと怒るんですよ、どうにかなりませんかね」と。

私は「じゃあ、とにかく行くから。救急車は自治会長が呼んだということにして、呼びなさい」と、そして私が駆けつけて行くというふうなことで、着いたら非常に安心しておられたんですよ。そのうちに救急車が来まして…

翌日、奥さんからまた電話があつて「市内にいる息子に電話した後、会長さんに電話しようかと、だいぶ迷ったんですけど、電話してしまいました。すいませんでした」と謝ってきました。

そういうことだろうと思います。近くに息子がいるから安心だ、ということは無いんです。たとえ市内にいる息子に連絡を取っても、30分、1時間以上かかるかもしれない。かたや、自治会長なら5分あれば確実に来るわけです。

そういう意味で言えば……私はいつも思うんですけども、自治会こそがライフラインだなあと思うんですよ。普通ライフラインと言われる、電気、水道、ガス、そんなものは違う。それは単なる社会のインフラじゃないかということです。結局、それは直接は命を助けてくれんよと。水なんか無くて1日、2日くらいは死にはせんでしょうし。こういうことでやっぱり、本当のライフラインというのは自治会、近所付き合い、人間関係じゃないかなというふうなことを痛感しております。

【山口さん】

◆自治会に、新しい人を受け入れる態勢があるか？

それから、講座の始めの方でも触れられていましたが、あちらに登壇している田中さんが引っ越してきたことと関係するんですが、やはり自治会の、人を受け入れる態勢ですね。あの…引っ越しとかで移ってこられる方を、自治会がいかに受け入れるかというようなこと、ものすごく大事なと思います。単なる加入じゃなくて、どういった受け入れ方をすると、安心して自治会に入ってもらえるか。そういうことを考えるのは非常に大事じゃないかなと思って、聴いておりました。

【佐藤先生】

じゃあ、田中さん…ちょっとそのお話を、もう一度お願いしていいですか。

【田中さん】

◆自治会での心の触れ合いが、大きな宝

長崎に引っ越してきたとき、地域の自治会長さんが真っ先に説明に来て下さったんですね。とても誠実で、まず尊敬できる人だなと思いました。

そして、こんな自治会に私も参加して、地域に何か役に立ちたいなという気持ちになりました。

でも、その時点ではどんな町に住んでるか、自分も分からないし、親戚は北海道にいるし、頼る人もいないということで、実はとても心細い思いをしていました。

しかし、その自治会に参加して役員になって、だんだんその地域に住んでいる人の性格っていうか、人となりを知っていくと、たとえば、お近くに民生委員さんが住んでおられたりとか、ちょうど子育てが終わったよという方がこちらにいらっやって、子育てのことで悩むときはこの人に相談しようとかですね、本当に…すごい安心感があったんですね。初めて暮らす地域で不安だったんですけど、すごく安心して暮らせるようになりました。

本当に、自治会に参加したっていうことは、何かすごく大きな力を得たっていう気持ちでいます。

私自身は大して何もできないんですけど、たとえば地域では花植えとかもありますから、そういうときに参加して…すると、私のことを知ってくださる方が…そのとき、私の家族がちょっと病気をしていたものですから「娘さん元気？ 大丈夫？」と声をかけていただいたりしました。それが、すごく嬉しいんですね。何かそういう心の触れ合いみたいなことが、私には大きな宝になっています。



第6回 公開講座

【佐藤先生】

だんだん盛り上がってきたね。じゃあ、冨増さんはどうですか。

【冨増さん】

◆自治会活性化の特効薬は無い？

関係のないことをしゃべってもいい？ 私は、この「担い手」を3回、つまり3年間連続して、受講したんですよね。

どうして受講したかという、やはり皆さんと同じように、どうやったら組織率、要するに会員を増やすことができるのか、あるいは、減らさずに済むか、これが大きな悩みだったので、受講したんです。

それから役員のなり手が無いという問題。それから、イベントに参加してくれる人がどんどん少なくなっているという悩みも。これを、何か解決する手段を教えてくださいませんかと思って、この「担い手講座」に参加したんです。

それで、1年目終わった結論としては、分かりませんでした。

だから、2年目…ま、2年も続けて受講していいのかな、って思いながらも参加していたけれども、やはり、分かりませんでした。

今年度、3年目はサポーターとして参加しました。グループ討議をやる時に、手伝いなさいということとで……自分の意見を言わずに、客観的に皆さんのグループ討議を聞いたんです。

それでやっと分かりました。結論は……結局、分からないということです(笑)。

いや、分からないのが当然なんだっていうことを、分かったんです。

自治会というのは、いろんな自治会の特徴がありまして、自分の自治会と同じところって、まず無いんですよね。ですから、「ああ～！ この自治会の活動は素晴らしいなあ！」という「ヒント」はたくさんございましたけれども、それが直接、今ここで、**特効薬的に効く、というようなことは無かった。**

でも、自分たちと同じ悩みを持って、こんなにたくさんの方が自治会を何とか維持しようと思って、こんなにやってるんだというその熱意を共有できたことが、非常に安心感というんですか…そういったことを感じました。

◆「頑張らない自治会」

私がここのサポーターの席にスカウトされたのは、私のポリシーが「**頑張らない自治会**」だからだと思います。

他のサポーターの方は、たとえば松島先生(笑)とかは、もう、むちゃくちゃ頑張ってるんです。他の人が「頑張るぞ！」と言っているところに、何でお前は「頑張らない」なんて言うのかね？ なんてね、ちょっとお叱りを受けたところもありますが、後の話でどうしても、あの…困ってる人たちのためです。この、他のサポーターの、立派な自治会活動とご自身の自治会とのギャップに悩んでいる人達の安心のために、少しでも、最後に話をさせて下さい。

【佐藤先生】

なるほど……あれ、ちょっと山下さんが手を挙げてますが、为什么呢か？

【山下さん】

◆**小さな工夫の積み重ねが大切**

ダイヤモンド3丁目です。先ほどうちの会長の松島が犬の話をしたんですけど、補足させてください。

こういう相談でした。「首輪を着けている犬が、自分の家の前をウロウロしてる」「毎日居るので、怖いんです」と…じつを言うと、そこはうちの自治会じゃなかったんです。ですから、その方は、まず地元の自治会長さんのところを訪ねて、ちょっとなんとかしていただけないか、と言ったそうです。

すると「犬のことは自治会では無理ばい、個人の問題やっけん」と言われたので、そのまま帰ってこられたそうなんです。でも、やっぱり目の前でずっと犬がうろうろしているわけですから、怖いですね。

そうして困ったあげく、松島会長のところに来られたということです。

写真を撮ったということだったので、すぐ会長と私の二人で考えたんですが、その写真を引き伸ばして、回覧板に付けて回しました。すると解決しました。ふたを開ければ、飼い主が高齢で十分に管理できず、徘徊していたんだそうです。そのことを、うちの自治会の人知っていたので、それを市の動物管理センターに伝えて、対処してもらいました。

実は、やっていることは大したことじゃないんです。別に、自治会長が出て行って一生懸命犬を探したとか、必死になって捕まえたとか、そういう話じゃないですよ。そういうことまでしなくていいんです。

たぶん最初に断った自治会長は、非常に責任感が強い会長さんなんです。会長が自分で何でもしないといけないと思っていたから、無理だという話になったんじゃないでしょうか？

こういうちょっとしたことの積み重ねが、街の安心、山口会長が言われたような、ライフラインというようなところにつながっていくのかと思うんですよね。

それからもう一つ。私がある日、公園を掃除していたら、子どもたちが一緒に手伝ってくれたんです。別に手伝えと言ったわけでは無いんですけど、その関係で仲良しになってきて、先日、いつものように掃除しているところに女の子が来て「おじちゃん、ポッキーばあげるけん」と。1本貰ったら「おじちゃん、もう1本あげる」って、4人くらいが順番に僕に食べさせるんですよね。そして、食べ終えたら、いきなり整列し始めて、「お願いがあります」って言うんです。えっ、何かなって思ったら「公園に時計台を作ってもらえませんか？ 帰りの時間が分からないんです」って言うんですよね。

でも時計台なんて、さすがにお金がかかりすぎる。いい方法はないかと思って、会長と話をしましたら、「普段ポスターとかを貼る掲示板の中に、壁掛け時計を付けようか」と。これはアイデアですよ。今は、全部の掲示板に時計が付いています。子どもたちからも喜ばれるし、大人の方からも「ウォーキングなんかで、通る度に時間が確認できるので助かりました」と言われました。これも、大したことはやってないんです。

3丁目ではいろいろな活動をしています。講座の中で「うらやましい、うちには無理だ」というような方もおられました。しかしこういう考え方や工夫は、地域とか世帯数に関係なく、どこの町でも可能性があるんじゃないかと思います。

第6回 公開講座

【山下さん】

◆自分の自治会の活動に、もっと自信を！

それから講座でサポーターをしながら皆さんの活動内容を伺うと、相当、素晴らしい活動をやっておられるんですね。ダイヤモンドの僕らがしてないことをたくさんやっておられて、しかも僕たちのように自慢するような調子もなく(笑)、当たり前のように話されます。「えっ、それってほんとは、すごい活動じゃないですか」と思うんですが、自覚していच्छやらないというか…

何か、自治会活動をされていて、必ずよそと比較しては「自分の自治会はなんてダメなんだ」と思っているような方が多いと思います。

外から見たら、すごい活動をされているんです。講座で、できたばかりの自治会の会長になったばかり、という女性の班についてたとき、「親睦を深めるために旅行を企画してます」と言われたんです。

自治会で旅行を企画するというのは、ものすごいエネルギーを使うんです。難しいんです。

それを、なってすぐの自治会長さんが「やろう」と思い立って、頑張っている。ものすごく嬉しかったです。それ、すごいことなんですよ、とその場では言いませんでしたが、すごいことやってるんです。

皆さん、よそと活動内容を比較するのはいいことだと思いますが、どうか、自分の自治会がダメなんだとは思わないでください。ぜひ、自信をもって、自治会活動を進めてほしいと思います。

【佐藤先生】

◆これまでのまとめ

ここで今のところまで、一度まとめましょう。

非常に面白かったのが「物事を見る見方」だと思いますね。

一つは、苦情や困りごと。大変だ面倒だと言ってしまえばおしまいになっちゃうんだけど、それは逆にチャンスなんじゃないかという、価値観というか物の見方の転換ですね。すごく、大事な見方だと思いますね。

それから、自治会という存在っていうのは、ある意味で非常に「空気的な存在」ということが言えるんじゃないかということですね。なかなか存在を意識することはありませんが、無いと、苦しい世の中になってしまう。

あとは、新しい人の受け入れというところで、知らない土地に入ってきて、そこで「ここの地域は自分を受け入れてくれているんだ」ということが実感できるような自治会。拒否されてるんじゃないというような、印象が持てる、そういう自治会だと、その後、その人と地域との関わりも左右されてくるような、大きな力みたいなものを、非常に感じました。

おっと、そういえば小田さん、何もしゃべってないようですが、女の都はどうですか？

【小田さん】

◆「自治会」だから、なんでもできる

女の都の小田です。みなさんと同じようなことかもしれませんが、私が初めて自治会の役員になったとき、いろいろな問題が起こったんですね。でもそういうとき、どこか、役所とかに何でも頼もうというんじゃなくて、まず、自分たちでやってみようということを考えたんです。

そして、皆で集まって話を出し合っ、一緒にやったら、「ああ、こう、一緒に汗を流して、こういうこともできて……地域活動って楽しいね、自治会って楽しいよね」という気持ちで、みんなの間に生まれてきたんです。そういうのが、大事なかなと思うんですよね。

一緒に行動したら、心の交流ができたり、お互いに、この人はどういうことを考えているんだというような、ことが分かってきます。そうすると、「次は何をしようか」とか「この前は止めたけど、やっぱりやってみよう」とか、まずは自分たちでやってみる、**自分たちで解決できないか**、という気持ちです。

地域の中でそういう雰囲気ができ上がると、それに伴って住民のつながりというのも、横にどんどん、どんどん広がっていった気がします。

皆で力を合わせてやると「わあ、こんなことまでできるんだ」「自治会だったらいろんなことができるね」というのが分かってくる。共有される。やっぱりそれが自治会の力になってくると思います。

【松島さん】

◆「去年より、少し頑張ってみる」ことが活性化につながる

小田さんの「汗を流す」とか「まずやってみる」というのはその通りだと思います。

今回の講座では、さっきも観ていただいたように、僕たち第3自治会の活動を紹介する機会があったんですけど、僕たちの活動ではいつも、「できる人が、できるだけ」やろうというふうに言っています。つまり、無理しないように、ということなんです。

でも、別の側面から見れば、ある意味では無理したところが成長していくんだらうと、僕は思います。無理しないようにすれば、成長がそこで止まってしまうんじゃないかなと。少しぐらい無理して、**去年より一つ新しいことをしよう**とか、**一つ、ちょっとだけ変えてみよう**ということ、やっぱり自治会が発展、活性化していくんじゃないかなと思います。

だから、あの……個人個人ではもちろん、無理しないように、という言葉がいいんでしょうけれども、自治会自体としては、やはり多少頑張っ筋力を鍛えないと、成長しないと思うんですよね。

【佐藤先生】

おっとこれは……富増さん、何か言いたいことがあると思いますが……？

第6回 公開講座

【富増さん】

◆これからの自治会…「自治会だけが頑張るんじゃないよ」

はい。私は「頑張らない自治会」って主張しているものですから、ちょっと批判されているような気がしますけど…私は、このダイヤモンド第3自治会が、立派すぎて悔しいから、あまり褒めないんです(笑)。

でも、ちょっと、褒めたいと思うところがあって、それは「将来の自治会のあり方」というところ。

今、おおかたの自治会のかたちというのは、昭和初期からあまり変わってないんじゃないかと思えますね。というのは、たとえば昔は、冠婚葬祭なんかを、みんなでお手伝いをしながらやっていくというのが、自治会の一つの役割でした。でも、今はもう、そういう時代じゃないですよ。

一人暮らしや共働きも当たり前になりました。一つの家三世代、じいちゃんばあちゃん、働くお父さんと家庭を守るお母さん、そして子どもたちという家の方が、珍しいんじゃないかと思えます。

そういう時代ですから、自治会の運営のしかたも変わっていかないといけないだろうと思うんですが、あまりそういうところは多くないように思います。

今年の担い手講座は、地域コミュニティ推進室長の森さんが、ずっと顔を出されていました。

「どういうことだろう、これは」と考えましたが、要するに「自治会も、地域の他のコミュニティと一緒にあって活躍して下さいね」という意図があったんだと思います。

でも大半の自治会長さんは「いやあ、今は自分の自治会の維持・存続だけで精いっぱいなんだよ」「他の団体にまで気を配れないよ」というようなところだと思います。

ところが、あのダイヤモンド3丁目は「高齢者サロン」みたいな取り組みもやってるわけですね。これは、狭い意味で考えれば、自治会の本来の仕事というわけでもないと思うんですよ。

それとか、鶴の尾。「助っ人隊」とか素晴らしい活動ですけども、実は、組織的には、自治会からは一線を引いたところに置かれているそうです。自治会の中で運営すると、金銭の問題とかが起こるんで、ちょっと他の組織にして、自治会がサポートするというような仕組みを作っています。

これが、つまりは地域コミュニティの連携の始まりじゃないかと思うんですよ。

だから子ども会とか、老人会とか、社協だとか、育成協だとか、民生委員児童委員、学校の育友会にPTA だとかも全部取り込んでいって…自治会だけが頑張るんじゃないよ、と。

こういうような時代が来るんじゃないかなと思っております。そういう意味で、このダイヤモンド3丁目とか、鶴の尾は、先駆けた自治会運営をされているということで、ここは褒めたいなと思っております。

これは私のまだ消極的な意見ではありませんけども、消極的意見もついでにいいですか？

◆「頑張らない自治会」の真意

あの…みなさんの中にも「自治会の理想形」というのが、あると思います。

「住民全員が自治会に加入して…行事を欠かさず温かいコミュニティづくり。共同作業で安全で清潔なまち。そして地域ぐるみで子どもの健全な育成、あるいは高齢者の見守り…」

という具合に…「ああ、なんて美しい地域！」ですね。これが理想の自治会ということですね。

でも、このように理想的な自治会運営を行っているのは、ごく限られたところだけでしょう。大抵は、こんな理想とは程遠い…とまでは言いませんが、悩み多き運営をされていることと思います。

しかし、自治会で求められるもっとも基本的なことは、私はこの**自治会という組織そのものが存続して存在していること**によって、**住民に安心感を与えること**だと思えますね。

そもそも自治会というのは、やる気のある人が集まってくる市民活動、ボランティアとは違って、「ここにも自治会があるみたいだし、まあ、しょうがないし入っておこう」

「会費も大して高いわけではないし」「入らなかつたらいろいろ言われるだろうし」

という人たちがほとんどで、自治会の意義とかポリシーというのは、あまり理解されないんです。

そんな自治会ですから、日常的に「自治会に関心を持って下さい、理解して下さい、行事に参加して下さい」と言っても、無理があると思うんです。そして、この無理をあまり押し通そうとすると、今度は「そんなこと言うなら俺はもう辞めるばい」と……講座の中でも、こんな話がありましたね。

ですから、あまり無理しても仕方がない。「頑張らない自治会」というのはそういうことです。

◆自治会は「地域を代表する唯一の団体」

ただ、自治会というのは——自治会の役割ということで……受講者のみなさんは勉強しましたよね。コミュニティの形成、安全安心なまちづくり、助け合いの精神を醸成、なんて——しかし、自治会の本当のパワーは「**地域を代表する唯一の団体**」というところだと思えます。そのことで行政との結びつきが強く持てるし、ある意味では、一種の圧力にもなる。

自治会は地域の代表だから、行政が地域で何かしようとするときには、必ず情報を流してきます。また、地域で何か問題が起こったときには、自治会が地域の意見を集約して、あのお役所、行政にぶつけることができるわけです。

他の市民団体には、こういうことは到底できません。市民団体が、行政に文句を言っても、大抵はのらりくらり、とかわされますよ。「いや結局、それはあんた方だけの意見でしょ」ということでしょうね。

でも、自治会が言えば、自治会というのはその地域を代表する団体ですから、すごく良く話を聞いてくれる。行政も「なるほど、それが自治会の、地域の考えなんですね」というように動くことができます。

そのためには、最低限、自治会のかたちが存続していればいいと、私はこう思えます。本当に、消極的なことですが、あまり、ダイヤモンド3丁目や鶴の尾のように素晴らしい活動はできないなという自治会でも、基本的なことを存続させて、かたちをしっかりと保っていればいいんですよ、安心して下さいということ、言いたかったんです。

ちょっとね、市長さんの前で調子悪かったかなと思いますけども…地域コミュニティの話もしたから、相殺ということでよろしいでしょうか。(苦笑)

第6回 公開講座

【佐藤先生】

時間がかかりおしてますが……では山下さん。

【山下さん】

◆今やってる人が楽しいかどうかが大切

富増さんの話に続いて……僕、よく尋ねられるんですよ、「どうやったら、自治会活動に参加してもらえますかね」とか「自治会に入っていない人はどうしたらいいですか」って。それに対して、僕はいつも答えるのは「今やってる人が楽しいかどうかが大切だよ」ということです。

会長や役員がいかにも嫌そうにやっていると、絶対、新しい人は入ってこないだろうから、「今、活動してる私自身が楽しいか？」ということを考えて、僕は今までやってきました。もちろん楽しいです。

この気持ちがある限り、ずっと続けられるわけです。この楽しそうな様子に周りの人も気付いてくれたら、自治会に進んで入ってくれる人もいるかもしれないし、活動にも出てくれるだろうと思います。

存続させることが、もちろん大事ですが、存続させている人が、楽しめているかどうか。それが無ければ、やはり、存続させよう、次に繋げよう、と思ってくれる人は居なくなってしまうだろうと思います。

それから、若者の問題もよく尋ねられます。「若い人たちを取り入れるにはどうしたらいいですか」と。僕は、若い人は、子育てとか仕事とか、子どもの部活に応援に行くとか、そういうことを一生懸命やってほしいと思っています。それ以外の、僕らみたいにフリーになった世代が、楽しく自治会活動をやれば、それをその若い世代が見てくれて、彼らが僕らの世代になったとき、引き継いでくれるんじゃないでしょうか。

自治会活動というのは、なんだか、マイナスの方にわざわざ物凄いエネルギーを使っているようなところ、もしかしたらあるんじゃないかなと思います。「楽しさ」ということを追求していったら、いい自治会活動になるんじゃないかなと思っています。

【佐藤先生】

ちょっと、ちょっと、いい雰囲気ですねえ。

【山口さん】

◆地域のことは自分たちでやる

あの、フォローをするつもりでもないですけども、私は「自治会活動をするからには、地域のことは自分たちでやる」つまり自己完結ということが、まず頭にあるんですね。

市役所のみどりの課とか何とかに言って、いろいろ交渉することもありますけど、そのときも、「これはうちの方でやります。まあ、汗を流すことも意味があるでしょう。しかし何かあったときには、どうか来て下さいね」という、それだけの話なんです。

とにかくバブルの時代みたいに、どこにでもお金があるわけではないんですから、とにかく自己完結型の自治会を目指していきましょうということです。

【山口さん】

◆やはりこれからの自治会は「団塊の世代」が担う

それから自治会の担い手ですけども、私、自治会の担い手は、やはり団塊の世代だと思います。

これに固執するわけじゃないんですけども、今は、ここら辺の世代が一番、地域を背負って立つ時代じゃないかなということです。

仲間とそういう話をしている、やはり、退職してからも「あとひと働き」っていう気持ちがあります。それから先の後継者に、背中を見せる、といった意味でも、やっぱりこの世代が一つ、頑張っていかなければならないんじゃないかと思っています。

そして自治会長も夢を持つ、熱意を持つ。これによって、後の世代に後ろ姿を見せることになるんじゃないでしょうか。そういうことを考えながら、今、自治会活動をしております。

【佐藤先生】

時間が来ました。あの、もうまとめません(笑)。

富増さんが言っている「頑張らない自治会」と、それからダイヤランド3丁目の「少し無理しても頑張ろう」というところ、相反するように思いますが、実はそうではないんです。本当は一つの方法論です。

いろいろな人が同じ街、同じ地域に住んでいて、その地域というものに対して、それぞれがどういう思いでいるのか。そういう人たちが、地域の中で、仲良く幸せに暮らしていくために、自分ができることは何だろう。その思いの強さというものが、地域の人たちに伝播していく。一つの水面に一つのしずくを落として波紋が広がっていくように、多分なっていくんだと思います。

その気持ちが、初めてその地域に来た人たちを巻き込むことになるんだろうし、そして、既に住んでいる人たちも巻き込んでいく。そういったようなところが、無理しないで、できる範囲で、楽しみながら。だけでも、成長するためには、頑張るところは頑張る。「学習するコミュニティ」という言葉を使うんですが、学びながらどんどん成長していくという、コミュニティっていうものを作っていくのが、実はまさに、自治会の一つの方向性を示しているんじゃないかと思っています。

そういう意味では、来年度以降もこの講座を続けて行ってほしいし、そしてこの、講座に参加してきてもらった自治会の、いろんな卒業生というグループがつながって、この講座を含めたいろんな学びを活かしていく、というようなことをぜひして行ってほしい。そういうことを、一応結びの言葉としたいということです。

どうもありがとうございました。

第6回 公開講座 終了

**平成25年度
地域づくり担い手育成講座
(ダイジェスト)**

[編集・発行]

長崎市 市民局市民生活部 自治振興課

TEL 095-829-1134

FAX 095-829-1233

平成26年4月発行